DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-2308

取扱説明書

安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

接続のしかた

メニュー操作

Auto Setup（オートセットアップ）

Manual Setup（マニュアル設定）

Input Setup（入力の設定）

Surround Modes（サラウンドモード）

Parameter（パラメーター）

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜け

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水をかけたり、濡らしたりしない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

必ず実施　禁止

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

5 年に一度は内部の掃除を

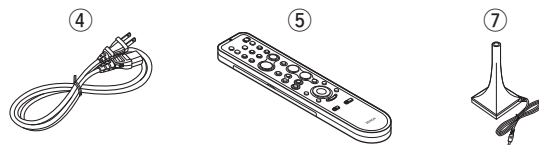
注意

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

付属品について

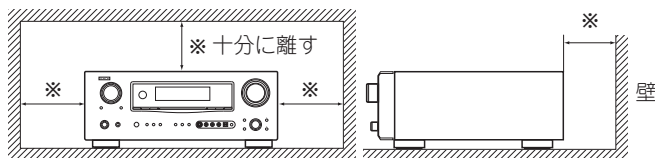
本体とは別に下記の付属品が入っています。
ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 保証書（梱包箱に貼り付けられています。）............... 1
③ 製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表................. 1
④ 電源コード（長さ：約 1.5m、本機専用）....................1
⑤ リモコン（RC-1082）..1
⑥ 単３形乾電池..2
⑦ セットアップマイク（コードの長さ：約 7.6m）........1

④ ⑤ ⑦

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他の AV 機器などとは十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話を使用すると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

お手入れについてのご注意

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。
◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

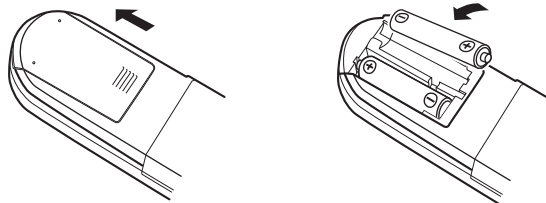
■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

リモコンについて

付属のリモコン（RC-1082）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。
① DENON製コンポーネント製品
② DENON製以外のコンポーネント製品
• プリセット登録による設定（☞48〜50ページ）

乾電池の入れかた

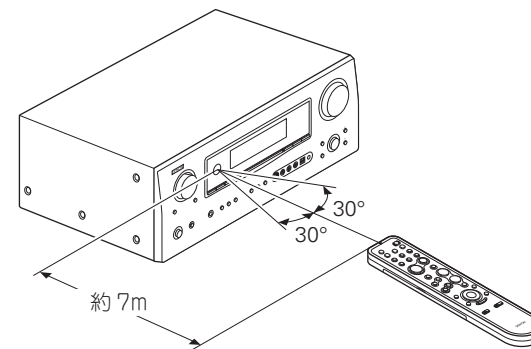
① つまみを引き上げながら、裏ぶたを取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

ご注意

- リモコンには単３形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

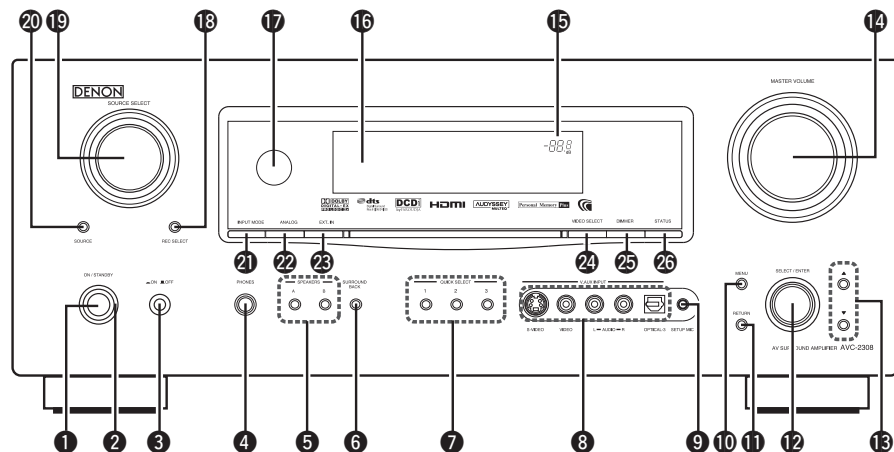
リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてお使いください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

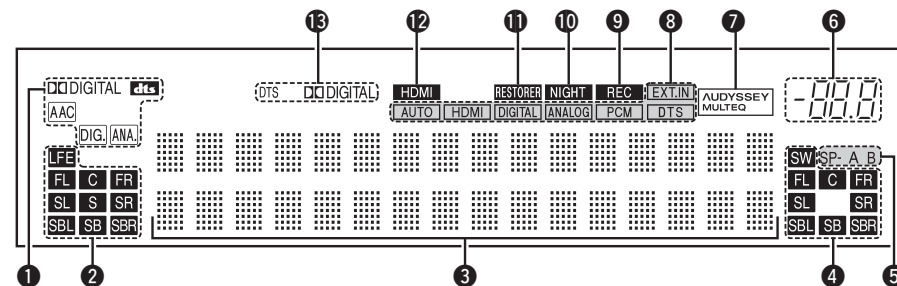
各部の名前とはたらき

各部のはたらきなど詳しい説明については、（ ）内のページを参照してください。

フロントパネル

❶ 電源ボタン（ON/STANDBY） ··················(43)
❷ 電源表示··················(43)
❸ 電源スイッチ（▃ON ■OFF） ··················(43、47)
❹ ヘッドホン端子（PHONES） ··················(43)
❺ スピーカーボタン（SPEAKER） ··················(43、47)
❻ サラウンドバックボタン（SURROUND BACK） ··················(39)
❼ クイックセレクトボタン（QUICK SELECT）··················(47)
❽ V.AUX 入力端子（V.AUX INPUT） ··················(18)
❾ セットアップマイク端子（SETUP MIC）··················(23)
❿ メニューボタン（MENU） ··················(20)
⓫ リターンボタン（RETURN）··················(20)
⓬ セレクト / エンターつまみ（SELECT/ENTER） ··················(20)

- 本体の **SELECT/ENTER** つまみは、リモコンのカーソル ◁ ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを左に回すとカーソル ◁ ボタン、右に回すとカーソル ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを押すと、リモコンの **ENTER** ボタンを同じ動作をします。

⓭ カーソルボタン（△▽） ··················(20)
⓮ 主音量調節つまみ（MASTER VOLUME） ··················(43)
⓯ 主音量表示
⓰ ディスプレイ
⓱ リモコン受光部 ··················(6)
⓲ 録音出力切り替えボタン（REC SELECT） ··················(46)
⓳ 入力ソース切り替えつまみ（SOURCE SELECT)··················(43)
⓴ ソース切り替えボタン（SOURCE）··················(43)
㉑ 入力モード切り替えボタン（INPUT MODE） ··················(34)
㉒ アナログボタン（ANALOG）··················(34)
㉓ 外部入力ボタン（EXT. IN）··················(34)
㉔ ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）··················(35)
㉕ ディマーボタン（DIMMER）··················(31)
㉖ ステータスボタン（STATUS）··················(42)

ディスプレイ

❶ 入力信号表示

❷ 入力信号チャンネル表示
デジタル信号入力時に点灯します。

❸ インフォメーションディスプレイ
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ 出力信号チャンネル表示

❺ フロントスピーカー表示
フロントスピーカー A/B の設定に合わせて点灯します。

❻ 主音量表示

❼ AUDYSSEY MULTEQ 表示
ルーム EQ 選択時に点灯します。

❽ 入力モード表示

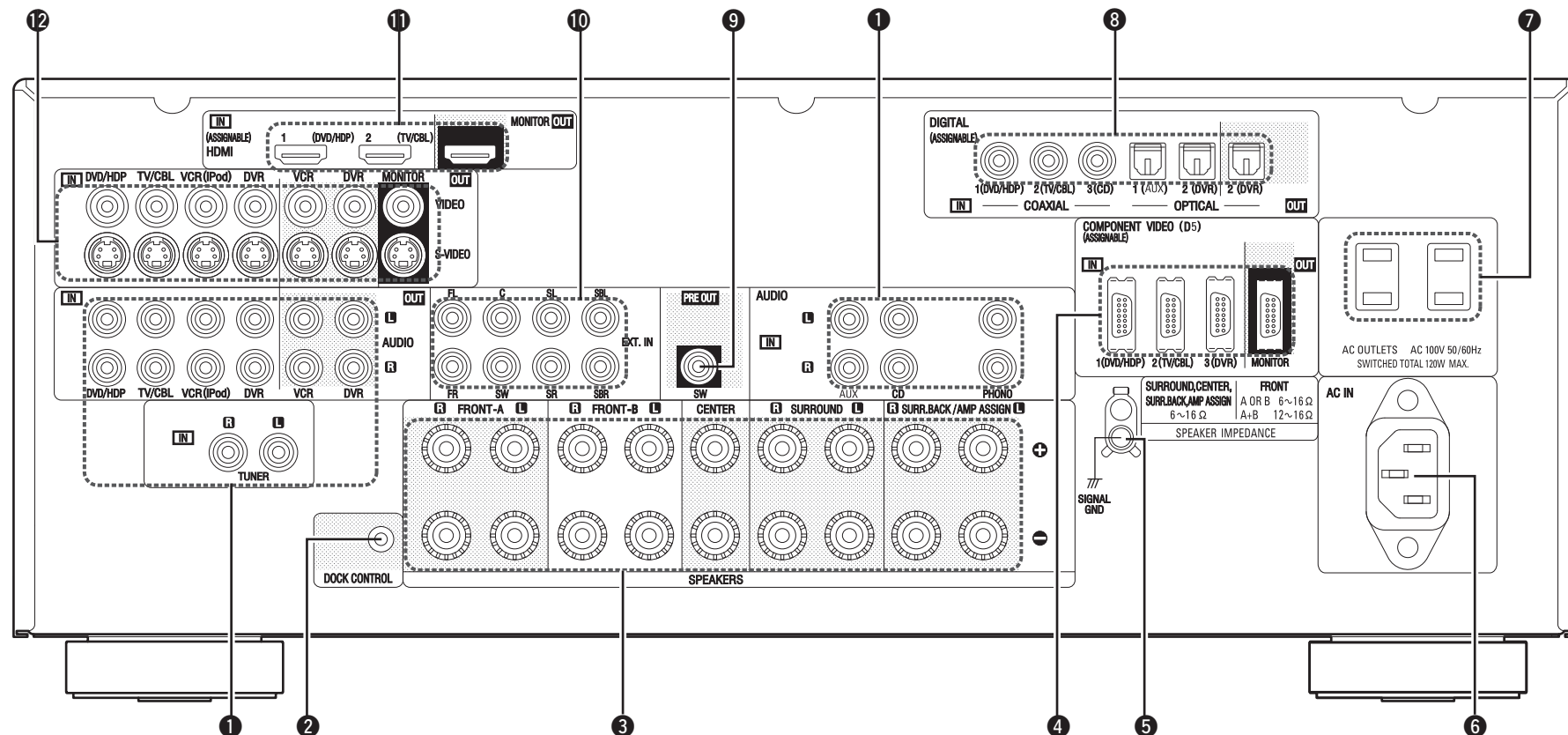
❾ 録音出力ソース表示
RECOUT モード選択時に点灯します。
（"SOURCE" を選んでいる場合は消灯します。）

❿ NIGHT 表示
ナイトモード選択時に点灯します。

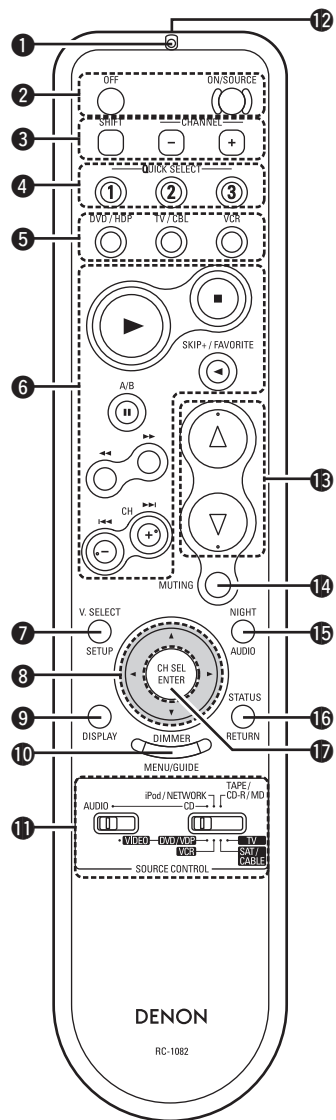
⓫ RESTORER 表示
RESTORER モード選択時に点灯します。

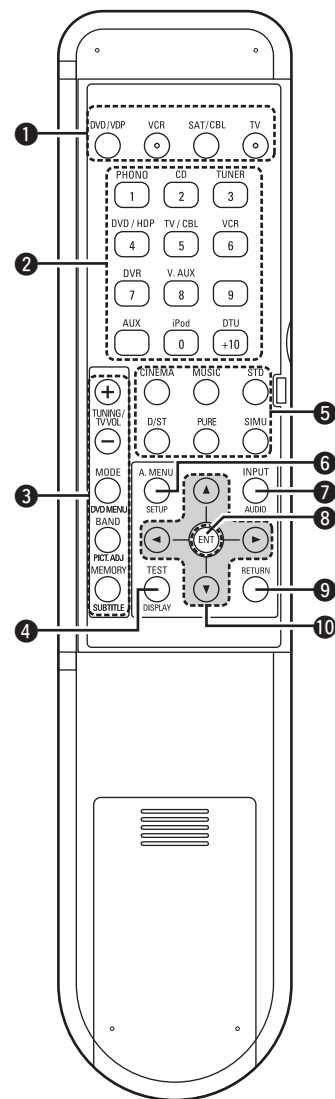
⓬ HDMI 表示
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓭ デコーダー表示
各デコーダー動作時に点灯します。

リアパネル

❶ アナログ音声端子（AUDIO）…………（14、15）
❷ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）……………………………（15）
❸ スピーカー端子（SPEAKERS）………………（12）
❹ コンポーネント / D5 ビデオ端子……………（14）
❺ アース端子（SIGNAL GND）…………………（15）
❻ AC インレット（AC IN）…………………………（19）
❼ AC アウトレット（AC OUTLETS）………（19）
❽ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）…………………（14、16）
❾ プリアウト端子（PRE OUT）…………………（12）
❿ 外部入力端子（EXT. IN）…………………………（18）
⓫ HDMI 端子……………………………………………（13）
⓬ ビデオ / S ビデオ端子（VIDEO/S-VIDEO）……………………………（14）

リモコン

【前面】

❶ 送信表示……(48)
❷ 電源ボタン……(43)
❸ チューナーシステムボタン……(49)
❹ クイックセレクトボタン
（QUICK SELECT）……(47)
❺ ソース切り替えボタン……(43)
❻ システムボタン……(45)
❼ ビデオセレクトボタン（V. SELECT）……(35)
❽ カーソルボタン（△▽◁ ▷）……(20)
❾ ディスプレイボタン（DISPLAY）……(41)
❿ ディマーボタン（DIMMER）……(31)
⓫ モード切り替えスイッチ……(43、44)
⓬ リモコン信号送信窓
⓭ 主音量調節ボタン……(43)
⓮ ミューティングボタン（MUTING）……(43)
⓯ ナイトボタン（NIGHT）……(41)
⓰ ステータスボタン（STATUS）……(42)
⓱ チャンネル切り替えボタン（CH SEL）/
エンターボタン（ENTER）……(20、46)

【裏面】

❶ 電源ボタン……(50)
❷ ソース切り替えボタン……(43)
❸ チューナーシステムボタン……(50)
❹ テストトーンボタン（TEST）……(27)
❺ サラウンドモードボタン……(36、37)
❻ アンプメニュー（A. MENU）……(20)
❼ 入力モード切り替えボタン（INPUT）……(34)
❽ エンターボタン（ENT）……(20)
❾ リターンボタン（RETURN）……(20)
❿ カーソルボタン（△▽◁ ▷）……(20)

ご注意

前面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますので、ご注意ください。

接続のしかた

この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法をお選びください。
接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくＬとＬ、ＲとＲを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

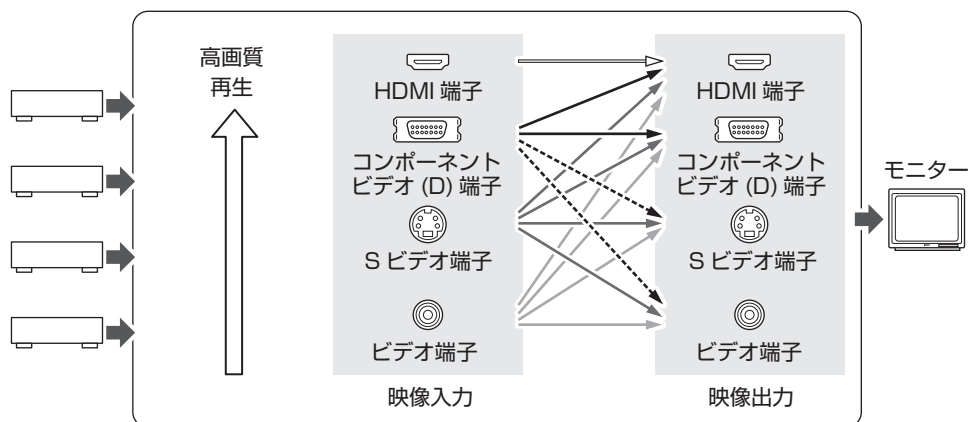
準備

接続に使用するケーブル

ご使用になる機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

ビデオコンバージョン機能

- この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からモニターに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。
- 本機の映像入出力は、次の 4 つの映像信号に対応しています。
  デジタル映像信号：HDMI
  アナログ映像信号：コンポーネントビデオ、S ビデオ、ビデオ

【本機内部での映像信号の流れ】

----：入力信号が 480i/576i の場合

- この機能を使用しない場合は、映像入力端子と同じ種類の端子からモニターへ出力してください。
- 本機と接続している HDMI 入力対応モニターの解像度は、メニューの“Information”-“HDMI Information”で確認できます（☞42 ページ）。

ご注意

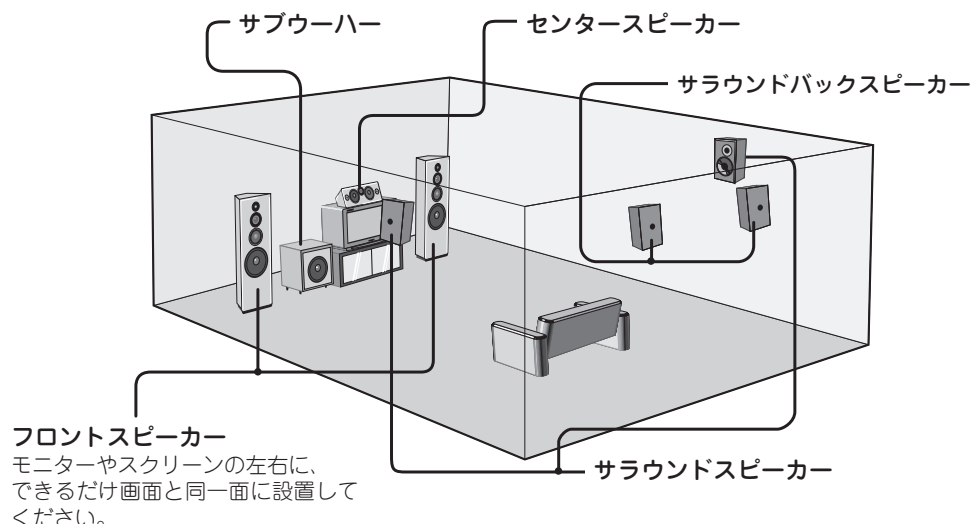
- HDMI 信号は、アナログ信号に変換できません。
- コンポーネントビデオ入力の 1080p の信号は、コンポーネントビデオ以外の端子には出力できません。
- コンポーネントビデオ入力の 480p/576p、1080i および 720p の信号は、S ビデオ / ビデオ信号に変換できません。
- ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。

HDMI またはコンポーネントビデオ出力のオンスクリーンディスプレイ表示について

- 本機に HDMI またはコンポーネントビデオ信号のみが入力されている場合は、オンスクリーンディスプレイの文字を映像信号に重ねて表示しません。
- 本機を通して HDMI またはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合は、**MENU** ボタンまたはリモコンの **DISPLAY** ボタンを操作したときに、オンスクリーンディスプレイが表示されます。

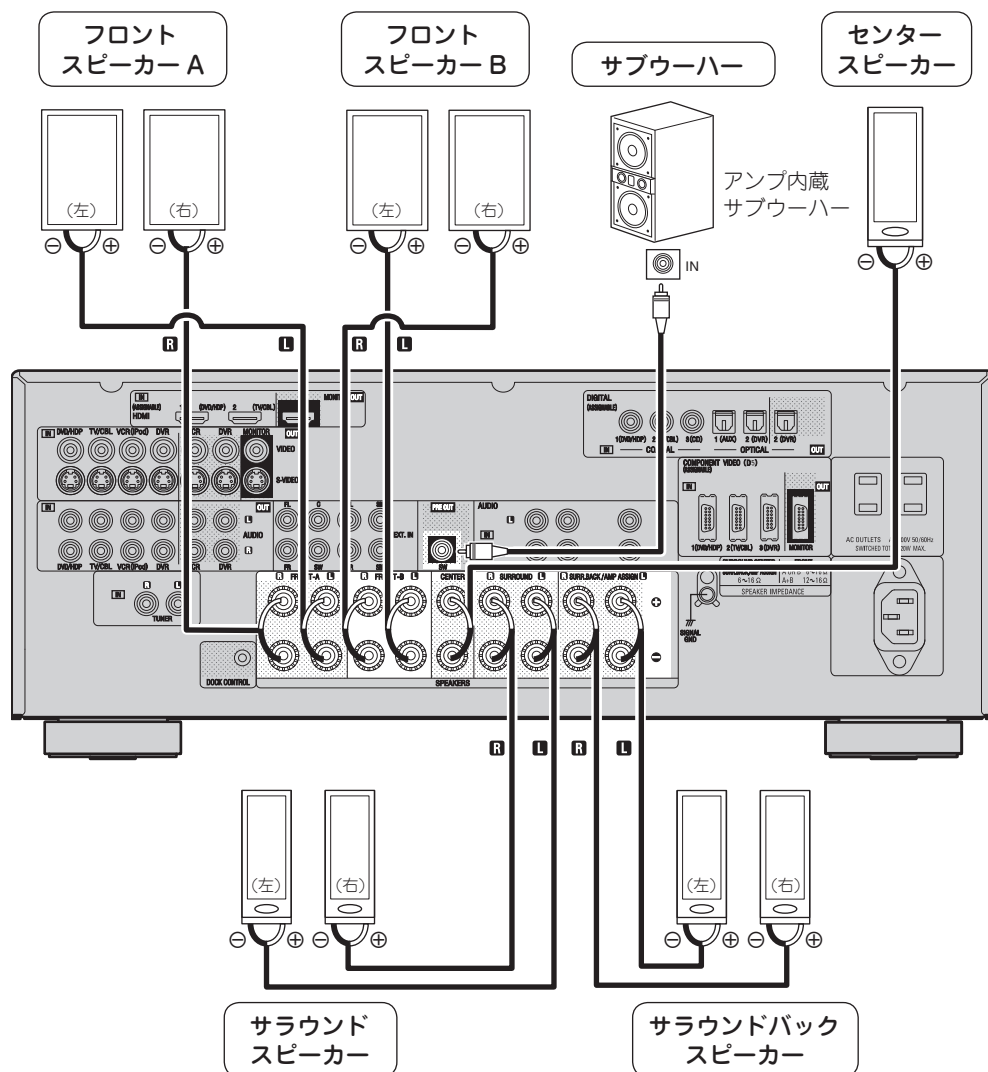
スピーカーの接続

スピーカーの設置

下図は、スピーカー（8台）とモニターを組み合わせた基本的な設置例です。

以下の表は、本機が対応している代表的なスピーカー構成です。

	フロントA		フロントB		センター	サラウンド		サラウンドバック			サブウーハー
	L	R	L	R		L	R	L	R	1本のみ	
7.1チャンネル（フロントA+B）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○
7.1チャンネル	○	○	–	–	○	○	○	○	○	–	○
6.1チャンネル	○	○	–	–	○	○	○	–	–	○	○
5.1チャンネル	○	○	–	–	○	○	○	–	–	–	○
3.1チャンネル	○	○	–	–	○	–	–	–	–	–	○
2.1チャンネル	○	○	–	–	–	–	–	–	–	–	○
2チャンネル	○	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–

スピーカーの接続

【例】7.1 チャンネル（フロント A+B）

サラウンドバックスピーカーを 1 本のみお使いになる場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

スピーカーケーブルを接続する

本機とご使用になるスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

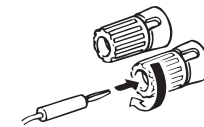
1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

4 スピーカー端子を右に回してしめる。

バナナプラグを使用する場合

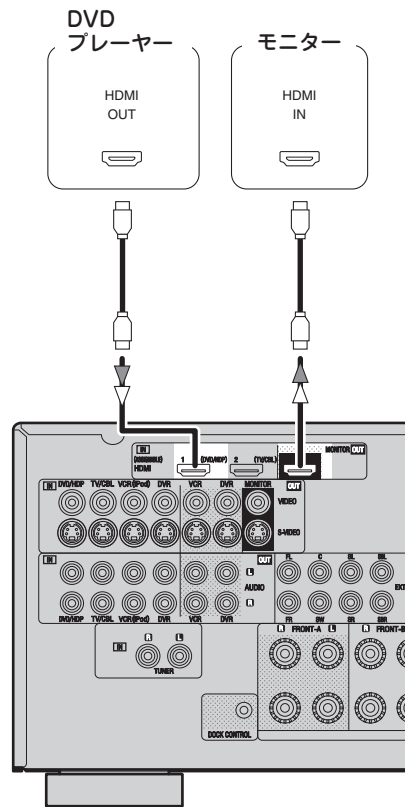
スピーカー端子を強くしめてから、バナナプラグを差し込む。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6 ～ 16 Ωのものをお使いください。また、フロントスピーカー A/B を同時に使用する場合は、12 ～ 16 Ωのものをお使いください。
- スピーカーケーブルは、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路が動作します（☞「保護回路について」）。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

保護回路について

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4 Ω）を使用して長時間大音量で再生すると、温度が上昇して保護回路が動作する場合があります。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が赤色で点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの接続を確認してください。また、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。その後、もう一度電源コードを挿入し、本機の電源を入れ直してください。
本機の周囲の通風や接続に問題がないのにも関わらず保護回路が動作する場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

HDMI 端子付き機器

HDMIで接続する場合は、映像および音声をHDMIケーブル1本で伝送することができます。

※ 本機は、HDMI のバージョン 1.3a に対応しています。他のバージョンとは互換性がありますので、HDMI 端子を装備した機器と接続してご使用いただけます。

※ 本機は、30 ビットと 36 ビットの Deep Color および xvYCC に対応しています。

対応する 音声フォーマット	詳　細	ディスク （例）
2 チャンネル リニア PCM	2ch 32-192kHz 16/20/24bit	CD、DVD-Video、 DVD-Audio
マルチチャンネル リニア PCM	8ch 32-192kHz 16/20/24bit	DVD-Audio
ドルビーデジタル、 DTS	ビットストリーム	DVD-Video

著作権保護システム（HDCP）

HDMI/DVI 接続を通して DVD ビデオや DVD オーディオのデジタル映像と音声を再生する場合は、接続された DVD プレーヤーとモニターの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。
HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機は HDCP に対応しています。ご使用になる DVD プレーヤーまたはモニターについては、各機器の取扱説明書をご覧ください。

- 初期状態では、HDMI 音声は本機に接続されているスピーカーから出力されます。
- テレビから音声を出力する場合は、メニューの“Manual Setup”-“HDMI Setup”-“HDMI Audio Setup”-“TV”の設定をおこなってください（☞27 ページ）。

ご注意

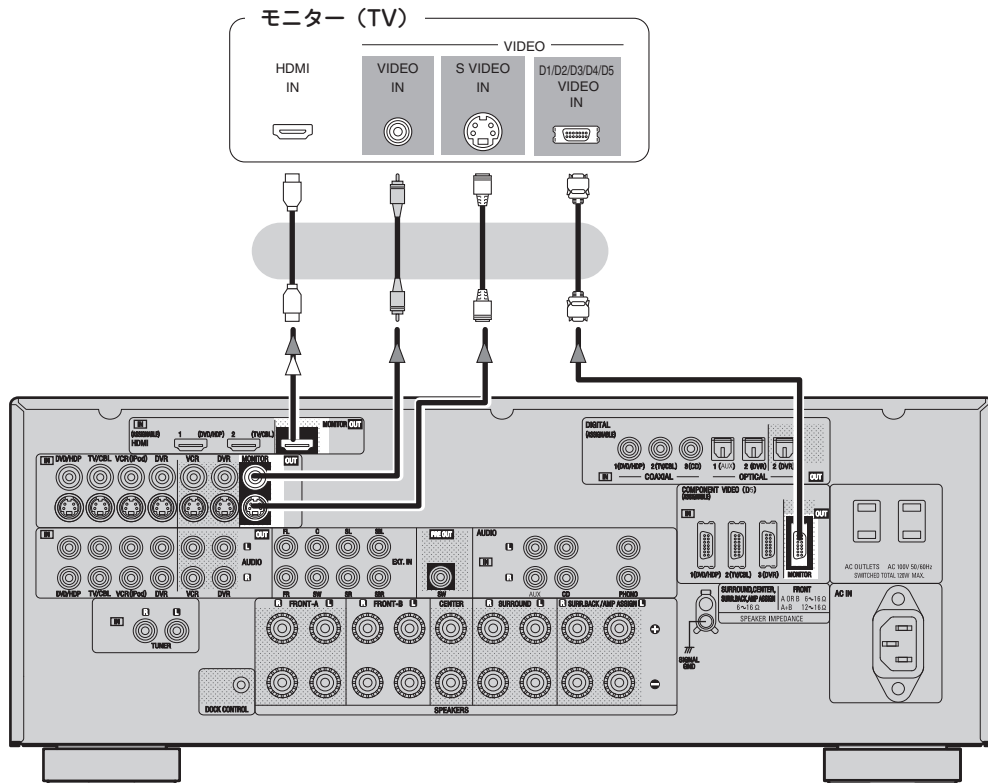
- CPPM で著作権保護された DVD オーディオを再生する場合は、CPPM に対応している DVD プレーヤーをご使用ください。
- 本機を HDMI ケーブル経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- HDMI 端子から出力される音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続する機器により制限される場合があります。
- HDCP に対応していない機器をご使用の場合は、映像が正しく出力されません。
- 入力された映像信号とモニターの解像度が合っていない場合は、映像が出力されません。このような場合は、DVD プレーヤーの解像度をモニターが対応している解像度に合わせてください。
- メニューの“Manual Setup”-“HDMI Setup”-“HDMI Audio Setup”の設定（☞27 ページ）が“AMP”のときにモニターの電源を切ると、音声が途切れる場合があります。
- HDMI 端子の接続には、HDMI ロゴが表記されているケーブル（HDMI 認証品）をお使いください。HDMI ロゴが表記されていないケーブル（HDMI 非認証品）を使用すると、正しく再生できない場合があります。
- モニターまたは DVD プレーヤーが Deep Color に対応していない場合、Deep Color での伝送ができません。
- モニターまたは DVD プレーヤーが xvYCC に対応していない場合、xvYCC での伝送ができません。

- 本機と DVD プレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とモニターも HDMI ケーブルで接続してください。
- 接続するモニターまたは DVD プレーヤーが DVI-D 端子のみ対応の場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルをお使いください。DVI ケーブルをお使いの場合は、音声信号は伝送されません。
- Deep Color 対応の機器と接続する場合は、Deep Color 対応のケーブルをお使いください。

HDMI/DVI 変換ケーブル（アダプター）で接続する場合

- HDMI の映像信号は、DVI と原理的に互換性があります。
  DVI-D 端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI/DVI 変換ケーブルで接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI/DVI 変換アダプターを使用して接続する場合、接続したケーブルとの接触不良などにより映像が正しく出力されない場合があります。

モニターの接続

- お使いになるケーブルを接続してください（☞11 ページ「ビデオコンバージョン機能」）。
- HDMI で接続する場合は、映像および音声を HDMI ケーブル 1 本で伝送することができます。
- HDMI 接続したテレビから音声を再生したい場合は、メニューの“Manual Setup” – “HDMI Setup” – “HDMI Audio Setup”を“TV”にしてください。

- 本機の D 端子は、D1 ～ D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）の映像端子に対応しています。
- 本機の D 端子をコンポーネント変換ケーブルで接続した場合、D 端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

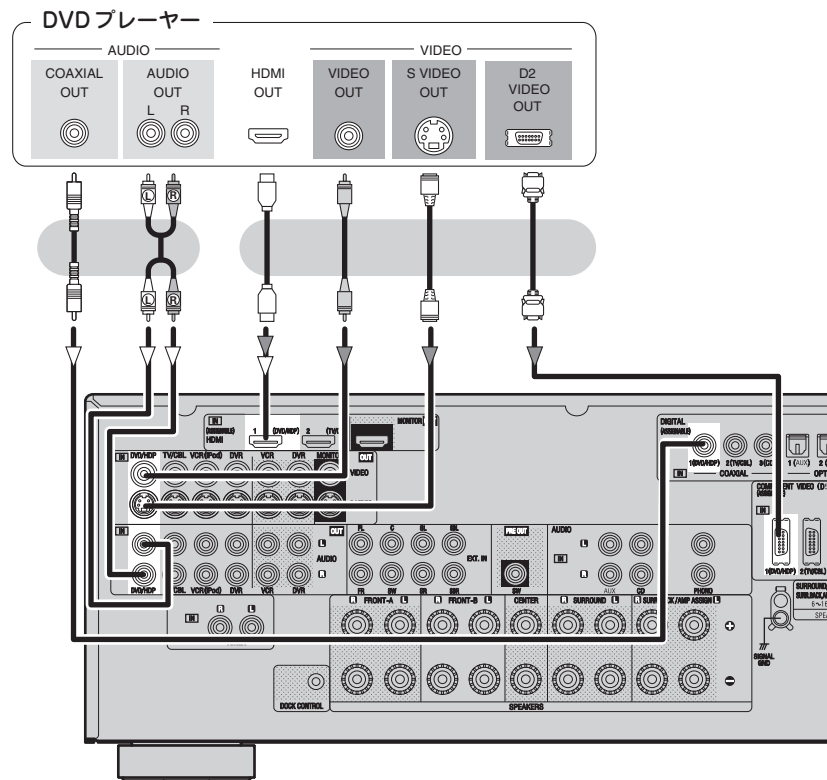
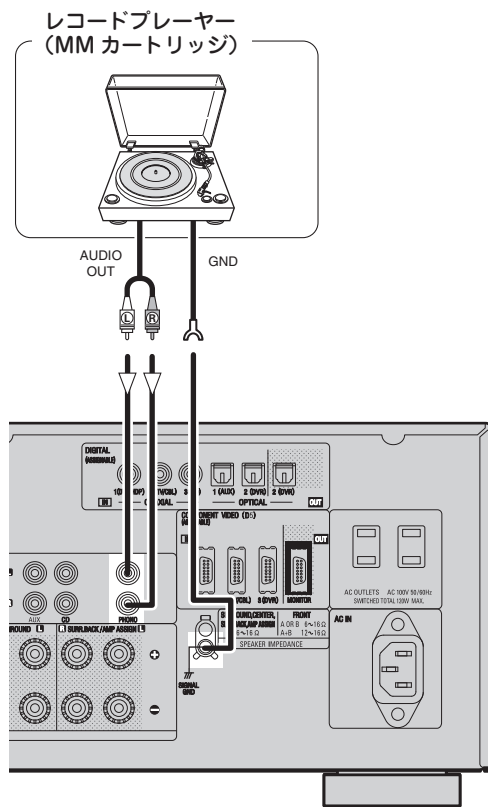
ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニターアウト端子から音声が出力されます。

再生機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

DVD プレーヤー

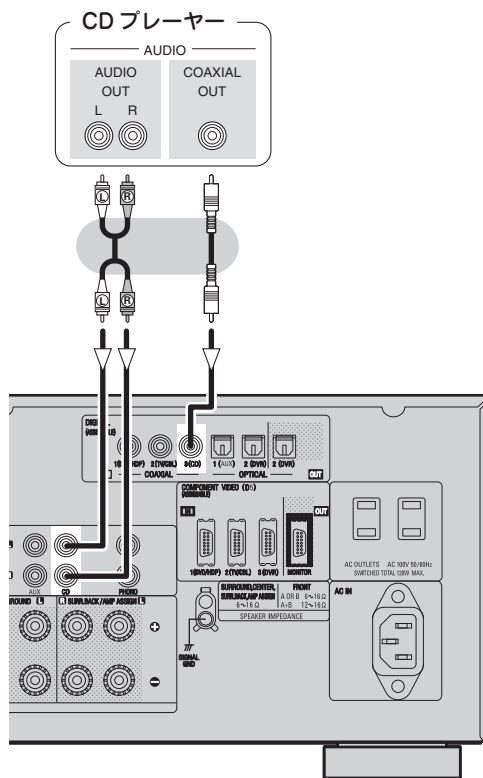
- お使いになるケーブルを接続してください。
- HDMI で接続する場合は、映像および音声を HDMI ケーブル 1 本で伝送することができます。

- HDP（High-Definition Player）は同じ方法で接続することができます。
- デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをご使用になる場合は、メニューの“Input Setup” - “Assign” - “Digital In”の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

レコードプレーヤー

- MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げたときに、"ブーン"という誘導ハム音がスピーカーから出力される場合があります。
- レコードプレーヤーによっては、アースワイヤーを接続しているときに雑音が発生する場合があります。このような場合は、アースワイヤーを外してください。

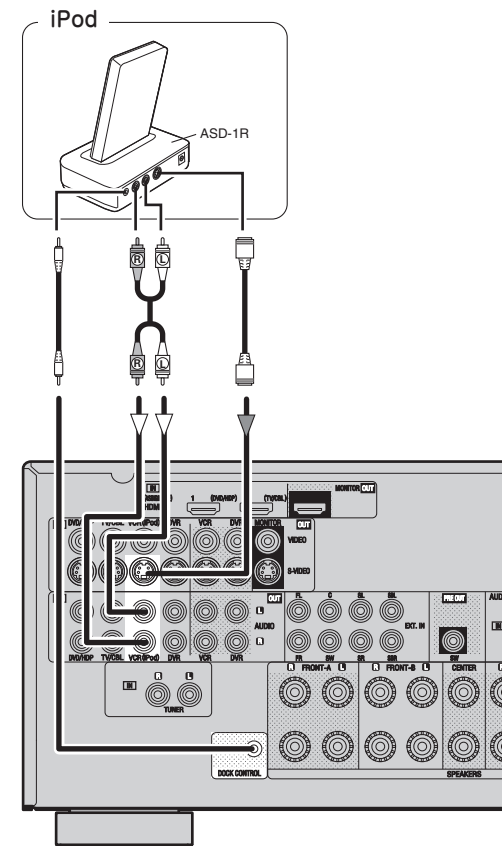
ご注意

本機の SIGNAL GND 端子は、レコードプレーヤーを接続した場合に雑音の低減をはかるもので、安全アースではありません。

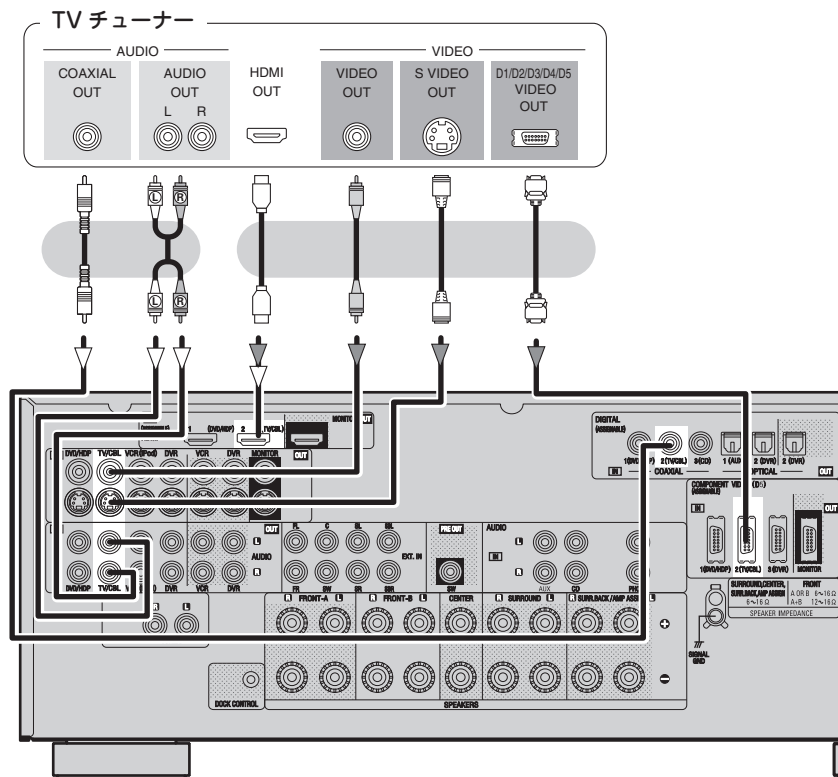
CD プレーヤー

お使いになるケーブルを接続してください。

デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをご使用になる場合は、メニューの"Input Setup" – "Assign" – "Digital In"の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

iPod®

本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をご使用ください。この場合、iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

- 初期状態では、iPod を VCR（iPod）端子に接続してご使用いただけます。
- iPod を VCR（iPod）端子以外に割り当てたい場合は、メニューの"Input Setup" –"(iPod dock を割り当てたい入力ソース)" –"Assign" –"iPod dock"の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

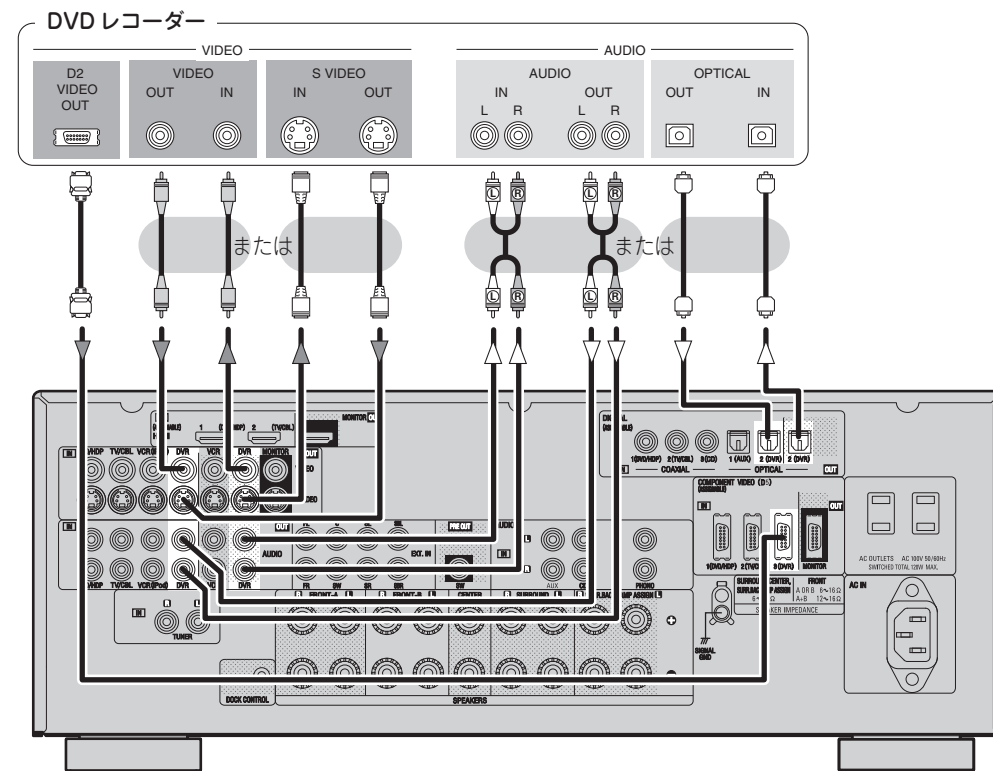
TV チューナー

お使いになるケーブルを接続してください。

デジタル音声の接続に光伝送ケーブルをご使用になる場合は、メニューの“Input Setup”–“Assign”–“Digital In”の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

録音 / 録画機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

DVD レコーダー

お使いになるケーブルを接続してください。

- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 本機を通して録音する場合は、再生機器のケーブルの種類を本機の DVR 出力端子に接続するケーブルの種類と同じにする必要があります。

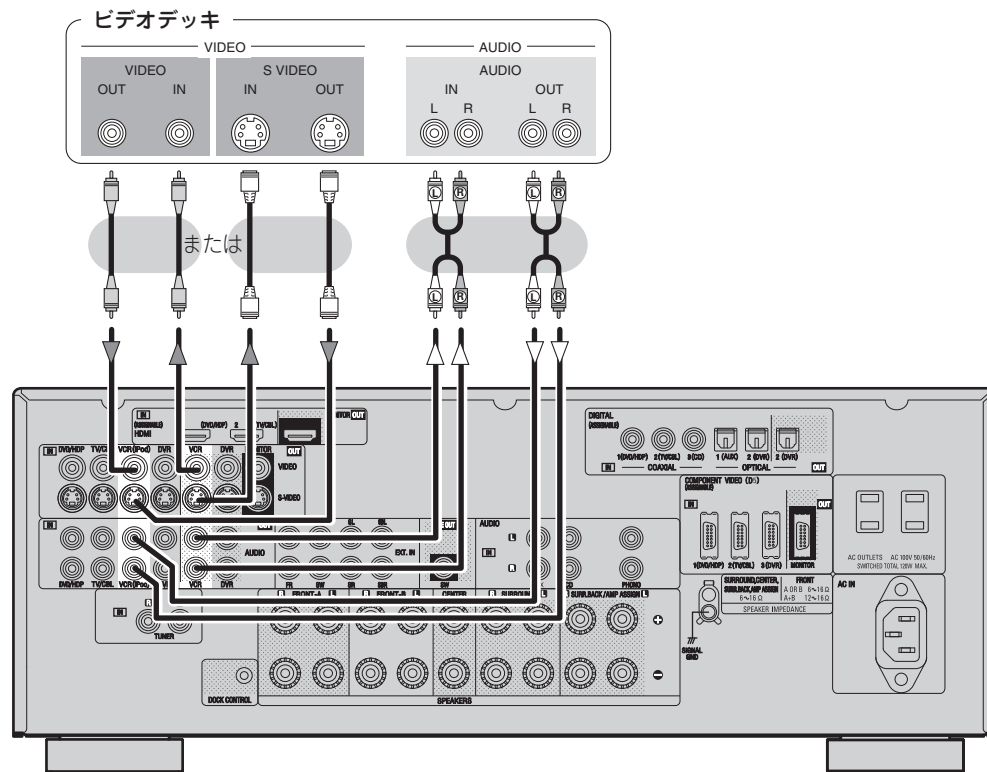
例： TV 入力 → S ビデオケーブル：DVR 出力 → S ビデオケーブル
　　TV 入力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル：DVR 出力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル

ご注意

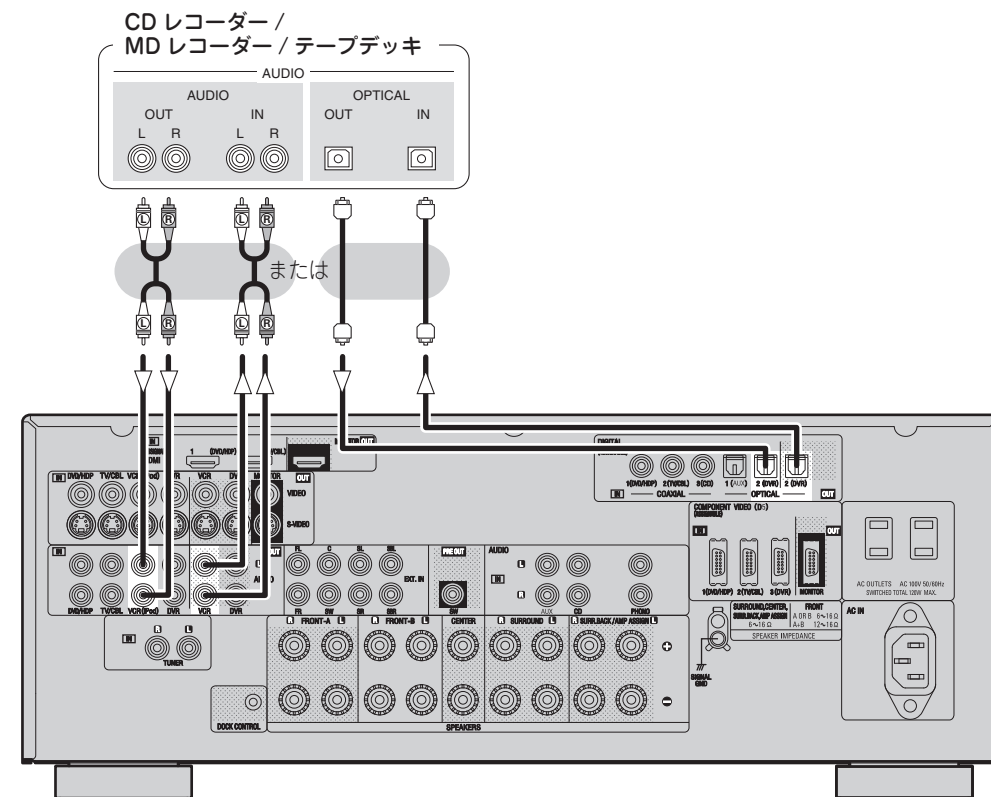
本機の OPTICAL2 出力端子に接続した機器の出力を、OPTICAL2 入力端子以外に接続しないでください。

ビデオデッキ

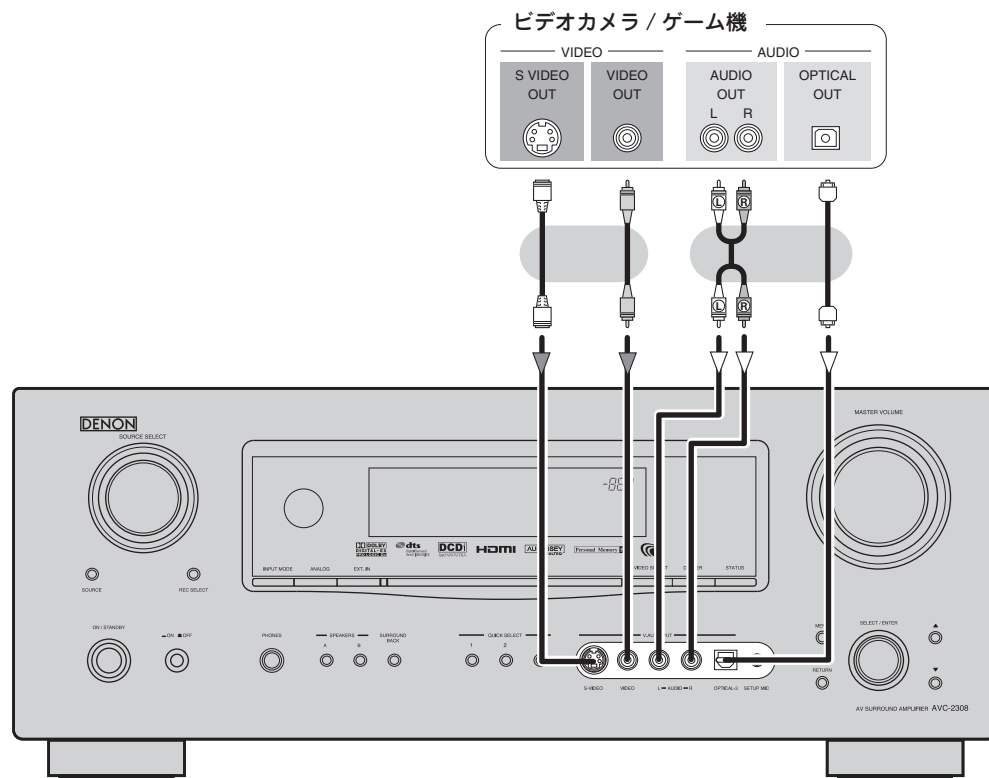
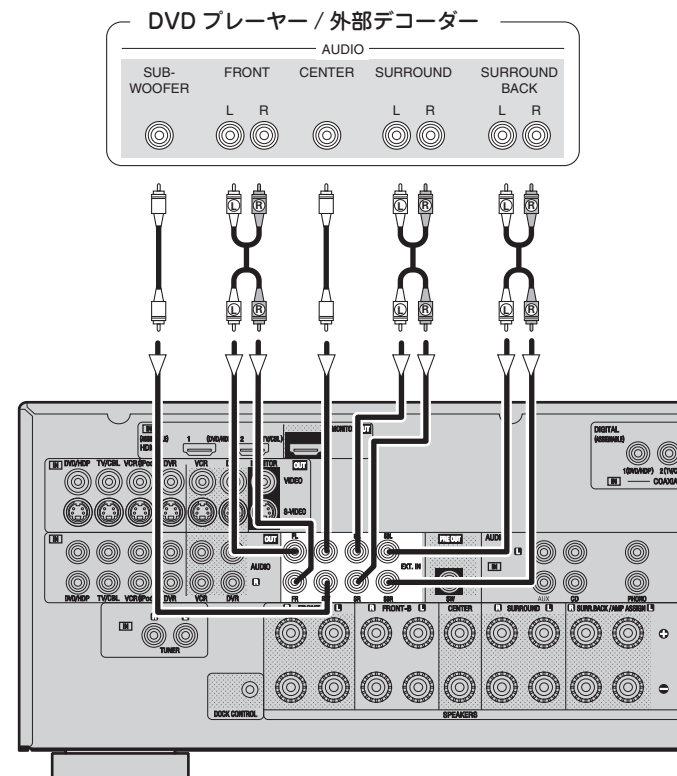
お使いになるケーブルを接続してください。

✎

- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 本機を通して録音する場合は、再生機器のケーブルの種類を本機の VCR 出力端子に接続するケーブルの種類と同じにする必要があります。
  例: TV 入力 → S ビデオケーブル：VCR 出力 → S ビデオケーブル
  TV 入力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル：VCR 出力 → 映像用 75 Ωピンプラグケーブル
- 映像の接続に D 端子用ケーブルをご使用になる場合は、メニューの"Input Setup" – "Assign" – "Component In" の設定をおこなってください（☞33 ページ）。

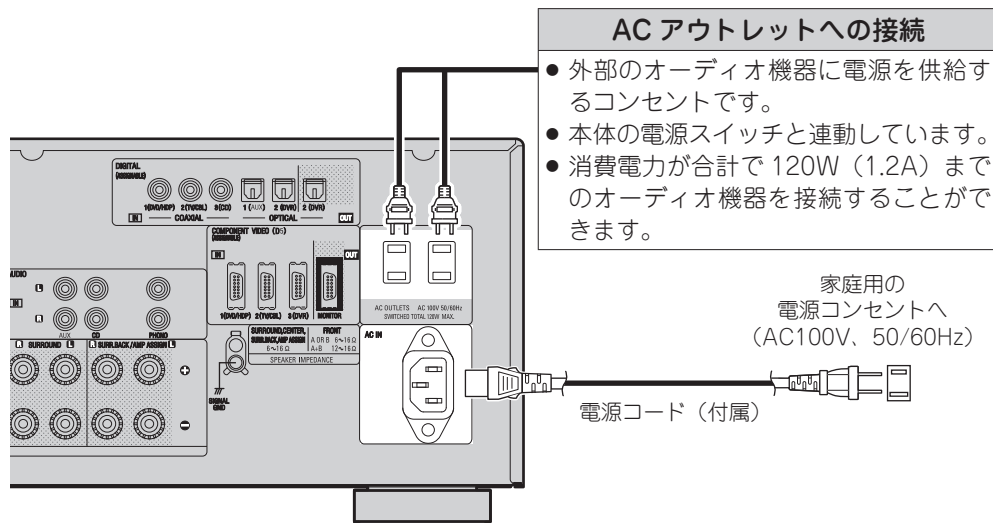
CD レコーダー /MD レコーダー / テープデッキ

お使いになる機器の端子に合わせて、アナログ音声を録音する場合はアナログ接続を、デジタル音声を録音する場合はデジタル接続をしてください。

その他の機器の接続

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）を確認してから、正しく接続してください。

ビデオカメラ / ゲーム機

マルチチャンネル出力端子がある機器

- ハイビジョン（MUSE 3-1 方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ / ステレオケーブルを使用してください。
- 外部入力（EXT. IN）端子に入力されたアナログ入力信号を再生する場合は、本体の **EXT. IN** ボタンまたはリモコンの **INPUT** ボタンを押して“EXT. IN”を選ぶか、メニューの“Input Setup” –“Input Mode” –“Input Mode” –“EXT. IN” の設定をおこなってください（☞34 ページ）。
- 映像信号は DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞14 ページ）。
- 著作権保護がかかったディスクを再生する場合は、本機の外部入力（EXT. IN）端子と DVD プレーヤーのアナログマルチチャンネル出力端子を接続してください。

電源コードの接続

すべての接続が終わってから電源コードを接続してください。

ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- AC アウトレットへは、オーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。
- AC インレット（AC IN）のアース端子は、接続されていません。

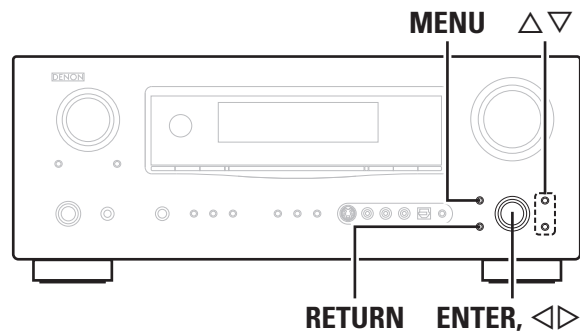
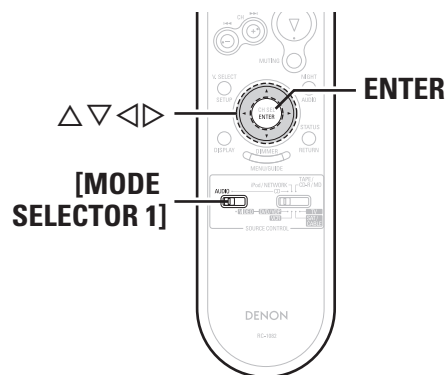
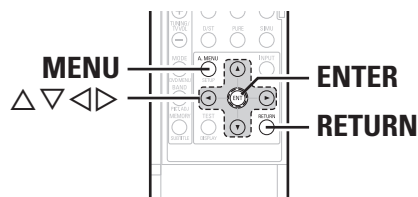
接続が終わったら

電源を入れる （☞43 ページ）

メニュー操作

本機では、ほとんどの機能の設定や操作を、モニター画面に表示されたメニューで操作することができます。

【前面】

【裏面】

操作説明のボタン名について

< >：本体のボタン
[ ]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

メニューの操作のしかた

本体でもリモコンでも同じ操作ができます。

1 MENU を押す。
メニューが表示されます。

※リモコンで操作するときは、**[MODE SELECTOR 1]** を"AUDIO"に設定してください（☞48ページ）。

2 △▽を押して、設定/操作したいメニューを選び、ENTER を押す。

3 △▽を押して、設定/操作したい項目を選び、ENTER を押す。

4 設定を変更するには、△▽で変更したい項目を選び、◁▷で設定を変更する。

※前の項目に戻る場合は、**RETURN** を押してください。
※"Default Yes"を選び◁を押すと、初期設定に戻ります。

5 ENTER を押して、設定を確定する。

6 MENU を押して、終了する。

MENU ボタンを押すと、それまでに設定した内容を確定して設定メニューを解除します。

お買い上げ時の設定（初期設定）の表示例

枠線が付いている項目は、お買い上げ時の設定項目または設定値です。

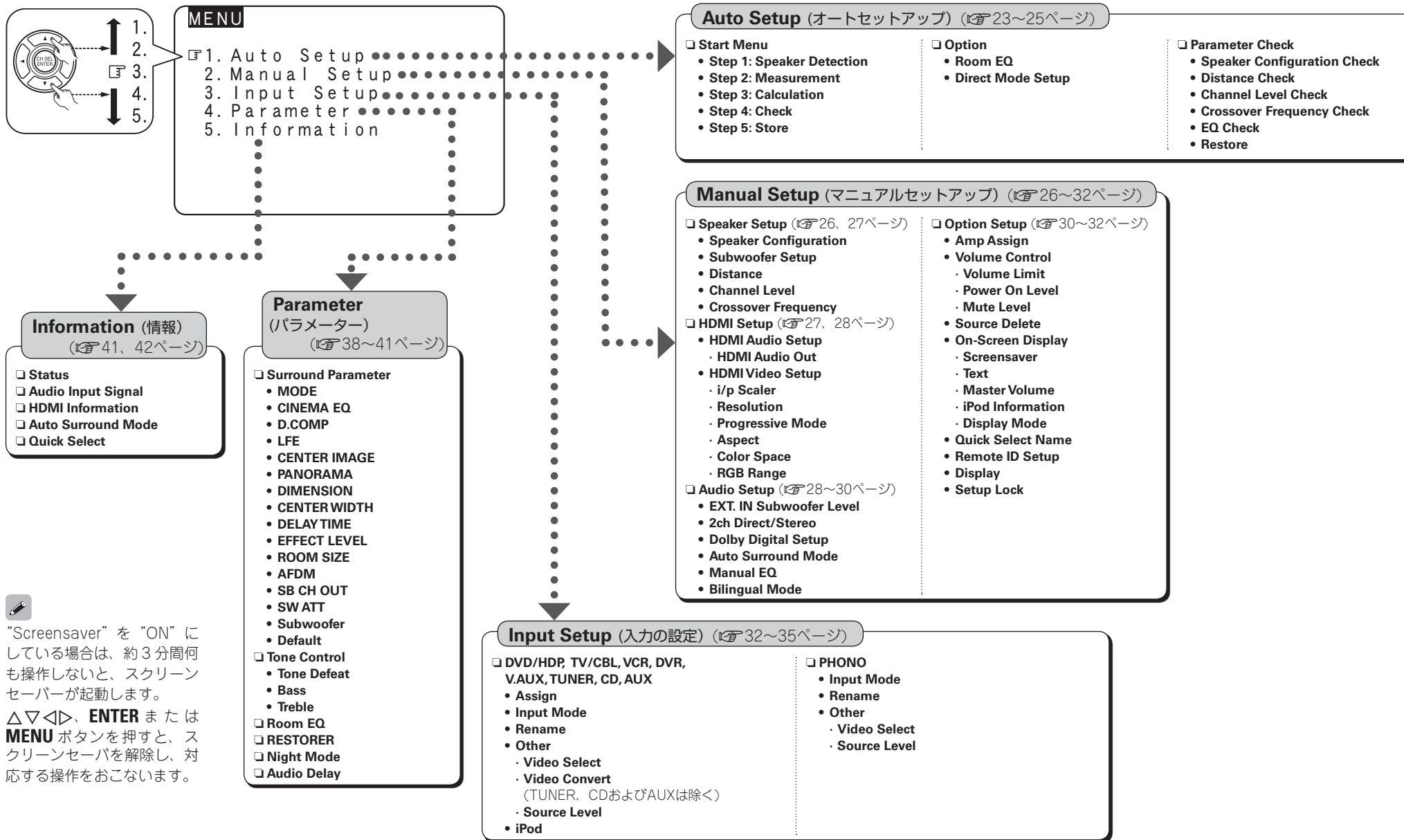
【選択できる項目】 A B A+B

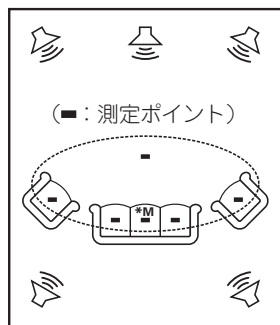
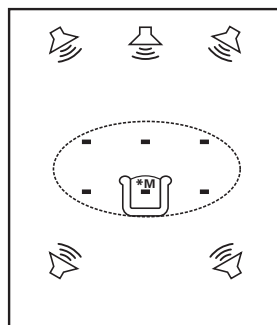
オンスクリーンディスプレイとディスプレイ表示例

代表的な例を説明します。

メニューマップ

“Screensaver”を“ON”にしている場合は、約3分間何も操作しないと、スクリーンセーバーが起動します。

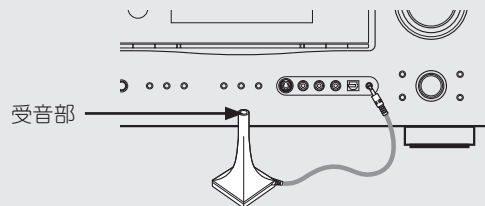
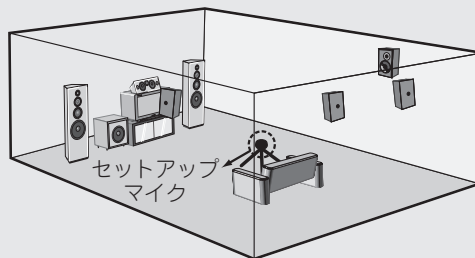
△▽◁▷、**ENTER** または **MENU** ボタンを押すと、スクリーンセーバを解除し、対応する操作をおこないます。

Auto Setup
（オートセットアップ）

- 本機のオートセットアップ機能 Audyssey MultEQ® は、リスニングルームの音響特性の測定・解析・設定を自動的におこない、最適なホームシアターオーディオ環境を提供します。
- オートセットアップは付属のセットアップマイク（DM-A405）を使っておこないます。
- 測定は、【例①】に示すように、リスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを連続的に配置しておこないます。最善の結果を得るには、図のように 6 ヶ所で測定することをおすすめします。
  リスニング環境が【例②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

メインリスニングポイント（*M）について
メインリスニングポイントとは、リスナーが一人のときに音場のほぼ中心に座る位置をいいます。 Audyssey MultEQ はこの位置からの測定値を用いて、スピーカー距離、レベル、極性、およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

設定のマニュアル調整については、26、27 ページをご覧ください。

準備

1 付属のセットアップマイク（校正済み）を本機の SETUP MIC 端子に接続する。

自動的にオートセットアップの画面が表示されます。

2 セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置し、受音部を耳の高さにする。

※ セットアップマイクを手で持ちながらオートセットアップをおこなわないでください。
※ セットアップマイクと各スピーカーの間には障害になる物がないようにしてください。
※ セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

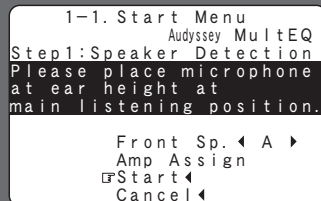
サブウーハーをお使いになるときは、オートセットアップをおこなう前に、次の設定をおこなってください。
- ダイレクトモード機能を搭載しているサブウーハーの場合は、“オン”にして音量と周波数の調節を無効にしてください。
- ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合は、次のように設定してください。
  - ・音量：“12 時”の位置
  - ・クロスオーバー周波数：“最大 / 最高周波数”
  - ・ローパスフィルター：“オフ”
  - ・スタンバイモード：“オフ”

ご注意

- セットアップマイクは、オートセットアップが終わるまで抜かないでください。
- ヘッドホンを使用している場合は、オートセットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

Auto Setup
（オートセットアップ）

お使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

●メニュー画面●

1 Start Menu（スタートメニュー）

自動的に設定をします。

Start（スタート）

オートセットアップを開始します。
Audyssey MultEQ オートセットアップ機能が、各スピーカーとサブウーハーのサイズ、チャンネルレベル、距離、クロスオーバー周波数の最適設定を自動的に計算します。また、Audyssey MultEQ がリスニングエリア内の音響歪みを補正します。
スタートの前に、すべてのスピーカーを接続し、配置してください。

測定中にエラーメッセージを表示した場合は、「エラーメッセージ」をご覧になり、必要な処理をおこなってから再びオートセットアップをおこなってください（☞25 ページ）。

Front Speaker（フロントスピーカー）

測定するフロントスピーカーをあらかじめ選べます。

【選択できる項目】

A：フロントスピーカー A からテストトーンを出力します。

B：フロントスピーカー B からテストトーンを出力します。

A + B：フロントスピーカー A と B からテストトーンを出力します。

Amp Assign（アンプの割り当て）

パワーアンプの割り当てを変更します。上級者向けの設定です（☞52、53 ページ）。

Step 1 : Speaker Detection（ステップ1：初期測定）

スピーカーの接続の有無と極性を最初の測定位置で検出し、スピーカーのサイズ・チャンネルレベル・距離・クロスオーバー周波数の測定をおこないます。
測定が完了すると、結果を表示します。

ご注意

- オートセットアップの測定中は、大きなテストトーンが出力されますが、これは正常な動作です。室内の騒音が大きいとさらにテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクとの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができなくなります。
- 測定中はリスニングルーム内の騒音を抑え、また会話も控えてください。エアコンや騒音を発生する機器の電源をオフにすることをおすすめします。測定値はこれらの騒音に影響を受けることがあります。
- 測定中に本体の **MASTER VOLUME** つまみやリモコンの **MASTER VOLUME** ボタンを操作すると、測定を中止します。
- "Step 1" の測定をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。

Step 2 : Measurement（ステップ2：測定）

一つの測定位置を完了したら、セットアップマイクを次の位置に移動します。

6 ヶ所（メインリスニングポイントとその周囲の 5 ヶ所）で測定します。最善の結果を得るには、**6 ヶ所**で測定することをおすすめします。

Step 3 : Calculation（ステップ3：解析）

"Step 2" で "Calculate" を選ぶと、得られた測定値を自動的に分析し、リスニングルームにおけるスピーカーシステムの特性を決定します。

解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。スピーカー数が多ければ多いほど、分析に要する時間は長くなります。

Step 4 : Check（ステップ4：解析結果）

オートセットアップが完了すると、解析結果の確認画面を表示します。
確認したい項目を選び、表示します。

フィルター内蔵スピーカー（サブウーハーなど）では、実際の距離と異なる値が表示されることがあります。これはフィルターが信号に電気的遅延を加えているためです。

Step 5 : Store（ステップ5：保存）

オートセットアップの測定結果を本機に保存します。

ご注意

設定結果の保存中は、電源を切らないでください。

エラーメッセージ

スピーカーの設置や測定環境などにより、オートセットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目をチェックし、必要な処理をおこなってください。問題点を修正したら、再びオートセットアップをおこなってください。

エラーメッセージ（例）	原　因	処　理
Auto Setup Audyssey MultEQ Caution! ☞Microphone:None or Speaker :None Retry◀ Cancel◀	●付属のセットアップマイクが接続されていません。 ●フロント左スピーカーが正しく検出されません。 ●すべてのスピーカーが検出されません。	●付属のセットアップマイクを本体の **SETUP MIC** 端子に接続してください。 ●スピーカーの接続を確認してください。
Auto Setup Audyssey MultEQ Caution! ☞Ambient noise is too high or Level is too low. Retry◀ Cancel◀	●部屋の騒音が大きいため、正しく測定できません。 ●スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しく測定できません。	●騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ●周囲がより静かなときに再度試みてください。 ●スピーカーの設置や向きを確認してください。 ●サブウーハーの音量を調節してください。
Auto Setup Audyssey MultEQ Caution! ☞◀Front ▶ R :None Retry◀ Cancel◀	●表示されたスピーカーが検出されませんでした。 ・フロント右スピーカーが正しく検出されません。 ・サラウンドスピーカーの片方のチャンネルしか検出されていません。 ・サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ接続している場合に、右チャンネルから検出されました。 ・サラウンドバックスピーカーが検出されましたが、サラウンドスピーカーが検出されません。	●表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Auto Setup Audyssey MultEQ Caution! ☞◀Front ▶ L :Phase Retry◀ Cancel◀ Skip◀	●表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	●表示されたスピーカーの極性を確認してください。 ●スピーカーによっては、正しく接続されていてもこのエラーメッセージが表示される場合があります。配線が正しければ、“Skip”を選んでください。

再度測定をおこなうには、“Retry”を選んでください。

ご注意 スピーカーの接続を確認する前に、必ず電源を切ってください。

2 Option（オプション）

その他の設定をします。

Room EQ（ルーム EQ）

ルーム EQ の設定方法を選びます。

【選択できる項目】

All :すべてのサラウンドモードに対して設定します。

Assign :各サラウンドモードごとに設定します。

Direct Mode Setup（ダイレクトモード）

DIRECT や PURE DIRECT モードで、ルーム EQ を使用するかどうかを設定します。

【選択できる項目】

ON : ルーム EQ を使用します。

OFF : 使用しません。

3 Parameter Check（パラメーター確認）

オートセットアップの測定結果を確認します。
（このメニュー項目は、オートセットアップをおこなわないと表示されません。）

【確認できる項目】

Speaker Config. Check（スピーカー構成確認）

Distance Check（距離確認）

Channel Level Check（チャンネルレベル確認）

Crossover Freq. Check（クロスオーバー周波数確認）

EQ Check（EQ確認）

“Restore”を選ぶと、各設定を手動で変更した場合でもオートセットアップの結果（MultEQ が当初計算した値）に戻すことができます。

Manual Setup（マニュアル設定）

いろいろなパラメーターの詳細な設定をおこないます。

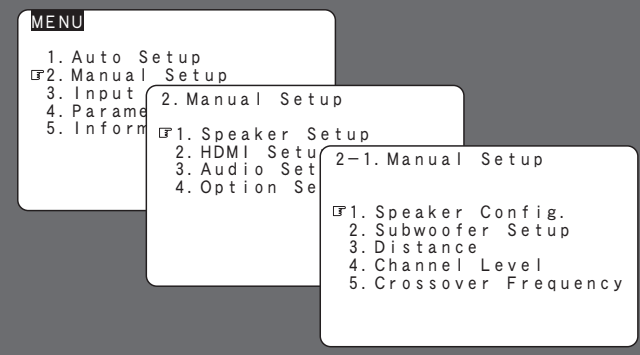
Speaker Setup（スピーカーの設定）

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

●メニュー画面●

```
MENU
 1. Auto Setup
☞2. Manual Setup
 3. Input
 4. Parame
 5. Inform

 2. Manual Setup
☞1. Speaker Setup
 2. HDMI Setu
 3. Audio Set
 4. Option Se

 2-1. Manual Setup
☞1. Speaker Config.
 2. Subwoofer Setup
 3. Distance
 4. Channel Level
 5. Crossover Frequency
```

1 Speaker Configuration（スピーカーの構成）

スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。

Front Speaker（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small

Center Speaker（センター）

センタースピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】 Yes No

Surround Speaker（サラウンド）

サラウンドスピーカーの有り・無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None

Surround Back Speaker（サラウンドバック）

サラウンドバックスピーカーの有り･無しや大きさを選びます。

【選択できる項目】 Large Small None 2spkrs 1spkr

Large：低音域を十分に再生できる能力があるスピーカーを使用するときに選びます。
Small：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用するときに選びます。
None：スピーカーを使用しないときに選びます。
Yes：サブウーハーを使用するときに選びます。
No：サブウーハーを使用しないときに選びます。
2spkrs 1spkr：使用するサラウンドバックスピーカーの数を選びます。

- “Large”と“Small”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、“Crossover Frequency”（☞27ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。
- “Front Speaker”を“Small”に設定すると、“Subwoofer”の設定は自動的に“Yes”になります。
- “Subwoofer”を“No”に設定すると、“Front Speaker”の設定は自動的に“Large”になります。
- “Surround Speaker”を“None”に設定すると、“Surround Back Speaker”の設定は自動的に“None”になります。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、左チャンネル（SBL）に接続してください。

2 Subwoofer Setup（サブウーハーモード）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】

LFE：“Small”に設定したチャンネルの低音域とLFE信号を再生します。
LFE+Main：すべてのチャンネルの低音域信号とLFE信号を再生します。

- メニューの“Speaker Configuration”-“Subwoofer”の設定が“Yes”のときに設定できます。
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られる方のモードを選んでください。
- 常にサブウーハーから低音域信号を出力したい場合は、“LFE+Main”を選んでください。

3 Distance（距離）

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
設定をおこなう前に、リスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測っておいてください。

Meters / Feet（メートル / フィート）

距離の単位を選びます。

Step（ステップ）

ステップ（最小可変距離）を切り替えます。

【選択できる項目】

0.1m 0.01m：“Meters”のときに表示されます。
1ft 0.1ft：“Feet”のときに表示されます。

Default（初期化）

設定を初期化します。

距離の設定

設定したいスピーカーを選び、距離を設定します。
測定した距離に最も近い値に設定してください。

【可変できる範囲】

0.00m ~ 18.00m：“Meters”のときに表示されます。
0.0ft ~ 60.0ft：“Feet”のときに表示されます。

ご注意

リスニングポイントから各スピーカーまでの距離の差は、6.00m（20.0ft）以下に設定してください。

4 Channel Level（チャンネルレベル）

すべてのスピーカーからの音量が同じになるように各チャンネルのレベルを調節します。

Test Tone（テストトーン）

テストトーンの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

Auto : テストトーンを出力するスピーカーを自動的に切り替えます。

Manual : テストトーンを出力するスピーカーを手動で選びます。

Test Tone Start（テストトーンスタート）

テストトーンを出力します。

【可変できる範囲】 **–12dB** ～ **0dB** ～ **+12dB**

Default（初期化）

設定を初期化します。

リモコンでも操作できます

テストトーンによる調節は、下記の通りリモコンからでもおこなえます。
リモコンでのテストトーンによる調節は“Auto”のみで、STANDARD（Dolby/DTS サラウンド）モード時に有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

① **TEST** ボタンを押す。
　テストトーンが各スピーカーより出力されます。
② ◁ ▷ ボタンを押して各スピーカーの音量が同じになるように調節する。
③ 調節が終わったら、もう一度 **TEST** ボタンを押す。

- メニューの“Speaker Configuration”-“Surround Back Speaker”の設定が“1spkr”の場合、サラウンドバックスピーカーの表示は“SB”になります。
- “Speaker Configuration”の設定で、“None”に設定されているスピーカーは表示されません。
- “Channel Level”を調節すると、調節された値がすべてのサラウンドモードに対して設定されます。サラウンドモード別にチャンネルレベルを調節する場合は、46 ページをご覧ください。

5 Crossover Frequency（クロスオーバー周波数）

サブウーハーから出力する各スピーカーの低音域信号を何 Hz 以下にするかを選びます。

【選択できる項目】

40Hz **60Hz** **80Hz** **90Hz** **100Hz** **110Hz** **120Hz** **150Hz** **200Hz** **250Hz** :
サブウーハーから出力される各スピーカーの低音域信号を、設定された周波数以下で出力します。
ご使用になるスピーカーの低域再生能力に合わせて設定してください。

Advanced :
各スピーカーごとに、クロスオーバー周波数を設定します。

- この設定は、メニューの“Speaker Configuration”の設定で“Small”に設定されているスピーカーがある場合や、“Subwoofer”を“Yes”に設定している場合におこなえます。（☞26 ページ）。
- “Advanced”の設定では、メニューの“Subwoofer Setup”が“LFE”の場合は、“Speaker Configuration”で“Small”に設定されているスピーカーの設定ができます。また、“LFE+Main”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
- “Small”に設定されたスピーカーの場合、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力されます。カットされた低音域はサブウーハーまたはフロントスピーカーから出力されます。
- クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

HDMI Setup（HDMI設定）

HDMIの映像/音声出力に関する設定をします。

●メニュー画面●

```
2.Manual Setup

 1.Speaker Setup
☞2.HDMI Setup
 3.Audio Setup
 4.Option Setup
```

```
2-2.HDMI Setup

☞1.HDMI Audio Setup
 2.HDMI Video Setup
```

1 HDMI Audio Setup（HDMI 音声設定）

HDMI の音声出力に関する設定をします。

HDMI Audio Out（HDMI 音声出力）

HDMI の音声の出力先を設定します。

【選択できる項目】

AMP : 本機に接続されたスピーカーシステムで再生します。

TV : 接続されたテレビで再生します。

2 HDMI Video Setup（HDMI 映像設定）

HDMI の映像出力に関する設定をします。

i/p Scaler（i/p スケーラー）

i/p スケーラー機能の設定をします。

【選択できる項目】

A to H : アナログ映像信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。

OFF : i/p スケーラー機能を使いません。

Resolution（解像度）

出力する HDMI 映像信号の解像度を設定します。

【選択できる項目】

Auto : モニターのパネル画素数を検出し、出力する解像度を自動的に選びます。

480p/576p : 480p/576p の解像度で出力します。

1080i : 1080i の解像度で出力します。

720p : 720p の解像度で出力します。

1080p : 1080p の解像度で出力します。

"i/p Scaler" の設定が "A to H" のときに設定できます。

ご注意

- "1080i" の信号を "720p" に変換することはできません。
- "720p" の信号を "1080i" に変換することはできません。

Progressive Mode（プログレッシブモード）

映像素材に最適なプログレッシブモードを選びます。

【選択できる項目】

Auto : 映像の素材を自動的に判定します。

Video1 : ビデオ素材の再生に適しています。

Video2 : ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。

"i/p Scaler" の設定が "A to H" のときに設定できます。

Aspect（アスペクト）

480i/576i または 480p/576p の入力信号を HDMI モニターアウト端子に出力するときのアスペクト比を設定します。

【選択できる項目】

FULL : 16:9 のアスペクト比で出力します。

NORMAL : 4:3 のアスペクト比で出力します。

- "i/p Scaler" の設定が "A to H" のときに設定できます。
- HDMI出力の解像度が、1080i、720p、1080pのときに有効です。それ以外の解像度で出力する場合は、テレビ側でアスペクト比の設定をおこなってください。

Color Space（カラースペース）

出力する色空間方式を設定します。

【選択できる項目】

YCbCr : YCbCr 方式で出力します。

RGB : RGB 方式で出力します。

HDMI/DVI 変換ケーブルを使用して、DVI-D 端子付きモニター（HDCP 対応）と接続した場合は、設定内容に関わらず RGB 形式で出力されます。

RGB Range（RGB 映像レンジ）

出力する RGB 映像レンジを設定します。

【選択できる項目】

Normal : 16（黒）～ 235（白）の映像レンジで出力します。

Enhanced : 0（黒）～ 255（白）の映像レンジで出力します。黒色が浮く場合に設定します。

"Color Space" の設定が "YCbCr" のときは、この設定は無効になります。

Audio Setup（音声の設定）

音声の再生に関する設定をします。

●メニュー画面●

```
2. Manual Setup

  1. Speaker Setup
  2. HDMI Setup
☞3. Audio Setup
  4. Option Setup
```

```
2-3. Audio Setup

☞1. EXT. IN SW Level
  2. 2ch Direct/Stereo
  3. Dolby Digital Setup
  4. Auto Surround Mode
  5. Manual EQ
  6. Bilingual Mode
```

1 EXT. IN Subwoofer Level（外部入力サブウーハーレベルの設定）

EXT. IN モードで再生するときのサブウーハーの設定をします。

【選択できる項目】

0dB **+5dB** **+10dB** : 使用するプレーヤーに合わせて選びます。

+15dB : 推奨レベルです。

2 2ch Direct/Stereo（2ch ダイレクト / ステレオ）

2 チャンネルモードで再生するときのスピーカーの各種設定をします。

Setting（設定）

設定を変更する場合は、"Custom" を選びます。

【選択できる項目】

Basic : "Speaker Setup" と同じ設定で再生します。

Custom : 2 チャンネルモード専用の設定をします。

Front（フロント）

フロントスピーカーの大きさを選びます。

【選択できる項目】

Large **Small** ：フロントスピーカーの大きさを選びます。

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハーの有り・無しを選びます。

【選択できる項目】

Yes **No** ：サブウーハーの有り・無しを選びます。

Subwoofer Mode（サブウーハーモード）

サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

【選択できる項目】

LFE **LFE+Main** ：サブウーハーで再生する低音域信号を選びます。

Crossover（クロスオーバー）

クロスオーバー周波数を設定します。

【選択できる項目】

40Hz **60Hz** **80Hz** **90Hz** **100Hz** **110Hz** **120Hz** **150Hz** **200Hz** **250Hz** ：クロスオーバー周波数を選びます。

Distance FL（フロント左までの距離）

リスニングポイントからフロントスピーカー左までの距離を設定します。

【可変できる範囲】 **0.00m ~ 18.00m**

Distance FR（フロント右までの距離）

リスニングポイントからフロントスピーカー右までの距離を設定します。

【可変できる範囲】 **0.00m ~ 18.00m**

3 Dolby Digital Setup（ドルビーデジタル再生時の設定）

ドルビーデジタルソースをダウンミックスで再生するときのダイナミックレンジの設定をします。

【選択できる項目】

ON ：圧縮します。フロントスピーカーの音がひずんで聞こえるときに選びます。

OFF ：圧縮しません。推奨の設定です。

- フロントスピーカーの音が歪んで聞こえる場合は、“ON”に設定してください。
- センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はダウンミックスしてフロントスピーカーから出力されます。

4 Auto Surround Mode（オートサラウンドモード）

入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。

【選択できる項目】

ON ：記憶します。ラストメモリーしたサラウンドモードで自動的に再生します。

OFF ：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

- オートサラウンドモードは、次の4種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶させることができます。
  ① アナログやPCMの2チャンネル信号
  ② ドルビーデジタルやDTSなどの2チャンネル信号
  ③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号
  ④ ドルビーデジタルやDTS以外のPCMのマルチチャンネル信号
- PURE DIRECTモードで再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

5 Manual EQ（マニュアル EQ）

グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節します。

Base Curve Copy（ベースカーブコピー）

ルーム EQ の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。

【選択できる項目】 **Yes** **No**

“Base Curve Copy”は、オートセットアップをおこなった後に表示されます。

Adjust CH（調節チャンネル）

スピーカーの調節方法を選びます。

【選択できる項目】

Each CH ：各スピーカーごとに音色を調節します。

L/R CH ：左右のペアごと一緒に音色を調節します。

ALL CH ：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。

Manual EQ（マニュアル EQ）

スピーカーや周波数帯を選び、レベルを調節します。

【選択できる項目】 **63Hz** **125Hz** **250Hz** **500Hz** **1kHz** **2kHz** **4kHz** **8kHz** **16kHz**

【可変できる範囲】 **–20dB** ~ **0dB** ~ **+6dB**

Default（初期化）

設定を初期値に戻します。

6 Bilingual Mode（バイリンガルモード）

AAC ソースやドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

【選択できる項目】

- **Main**：主音声のみ出力します。
- **Sub**：副音声のみ出力します。
- **Main/Sub**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
- **Main+Sub**：主音声と副音声がミックスされて出力します。

- バイリンガルモードは、AAC ソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

AAC ソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

- “Main”選択時：FL（点灯） C FR
- “Sub”選択時：FL C FR（点灯）
- “Main/Sub”または“Main+Sub”選択時：

※ DTS ソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、“FL”と“FR”が点灯します。
※ “MPEG2 AAC”モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、“STEREO”モードなどを選んでください。

Option Setup（その他の設定）

その他の設定をします。

●メニュー画面●

```
2.Manual Setup

  1.Speaker Setup
  2.HDMI Setup
  3.Audio Setup
☞4.Option Setup
```

```
2-5.Option Setup
☞1.Amp Assign
  2.Vol.Control
  3.Source Delete
  4.On-Screen Display
  5.Quick Select Name
  6.Remote ID Setup
  7.Display
  8.Setup Lock
```

1 Amp Assign（アンプの割り当て）

サラウンドバックスピーカーチャンネルのアンプの用途を設定します。

お使いになる環境にあわせて、サラウンドバック用アンプの使用先を自由に設定することができます。
これにより、フロントスピーカーの高音質再生（バイアンプ）や２チャンネル再生専用のスピーカーを接続してお楽しみいただけます。

【選択できる項目】

7.1ch **FrontA Bi-Amp** **FrontB Bi-Amp** **2ch**

詳しくは、「アンプアサインの設定と接続について」をご覧ください（☞52、53ページ）。

2 Volume Control（音量の設定）

音量の設定をします。

Volume Limit（音量の上限）

主音量の上限を設定します。

【選択できる項目】

- **OFF**：設定しません。
- **–20dB**：–20dB まで音量を上げることができます。
- **–10dB**：–10dB まで音量を上げることができます。
- **0dB**：0dB まで音量を上げることができます。

Power On Level（電源オン時の音量）

電源を入れたときの音量を設定します。

【選択できる項目】

- **Last**：記憶している前回の主音量で再生します。
- **– – –**：常に電源を入れたときは消音状態です。
- **–80dB ~ +18dB**：電源オン時の音量レベルを 1dB 単位で設定します。

Mute Level（ミューティングレベル）

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

【選択できる項目】

- **Full**：消音状態になります。
- **–40dB**：現在の主音量から 40dB 下げて再生します。
- **–20dB**：現在の主音量から 20dB 下げて再生します。

3 Source Delete（使用ソースの選択）

使用しない入力ソースを消去し、表示しないように設定します。

【選択できる項目】

ON：使用します。

Delete：使用しない入力ソースを消去し、表示しないようにします。

ご注意

- 現在選択中の入力ソースは、削除できません。
- “Delete”に設定された入力ソースは、本体の **SOURCE SELECT** つまみやリモコンの **SOURCE SELECT** ボタンでも選べなくなります。

4 On-Screen Display（オンスクリーンディスプレイ）

オンスクリーンディスプレイの表示に関する設定をします。

Screensaver（スクリーンセーバー）

スクリーンセーバーの表示を設定します。
スクリーンセーバー機能によりモニター画面の焼き付きを防止します。

【選択できる項目】

ON：約 3 分間操作をしないとスクリーンセーバー機能が働きます。

OFF：スクリーンセーバー機能は働きません。

Text（操作内容の表示）

操作内容を表示します。

【選択できる項目】

ON：表示します。

OFF：表示しません。

Master Volume（主音量表示）

主音量を調節するときに主音量レベルを表示します。

【選択できる項目】

ON：表示します。

OFF：表示しません。

iPod Information（iPod 操作時の表示）

iPod 操作時にオンスクリーンディスプレイを表示する時間を設定します。

【選択できる項目】

Always：常に表示します。

30Sec：操作後 30 秒間表示します。

10Sec：操作後 10 秒間表示します。

OFF：表示しません。

Display Mode（ディスプレイモード）

オンスクリーンディスプレイの表示モードを設定します。

【選択できる項目】

Mode1：映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止しません。

Mode2：映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
“Mode1”でオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は、このモードにしてください。

5 Quick Select Name（クイックセレクトネーム）

クイックセレクト 1 ～ 3 の名前を変更します。
16 文字まで入力することができます。

【入力できる文字】

A ~ Z　**a ~ z**　**0 ~ 9**　**! # % & ' ( ) * + , - . / : ; = " ? @ [\ ]**（空白）

6 Remote ID Setup（リモート ID の設定）

リモコンの ID を設定します。

【選択できる項目】

1　**2**　**3**　**4**：
使用するリモコンと本機の ID を合わせてください。

ご注意

付属のリモコン（RC-1082）を使用する場合は、リモート ID を設定する必要はありません。
別売りのリモコン（RC-7000CI など）を使用する場合に設定してください。使用するリモコンと本機の ID を合わせてください。

7 Display（ディスプレイの明るさ）

本体のディスプレイ表示の明るさを調節します。

【選択できる項目】

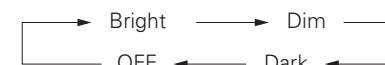
Bright：通常の明るさです。

Dim：薄暗くします。

Dark：暗くします。

OFF：操作時以外は消灯します。

本体やリモコンでも設定できます

DIMMER ボタンを押す。

8 Setup Lock（設定の保護）

設定した内容を変更できないように保護します。

【選択できる項目】

ON：保護します。

OFF：保護しません。

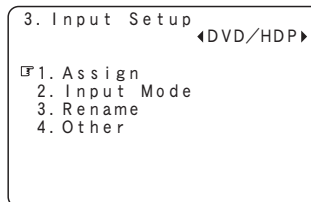
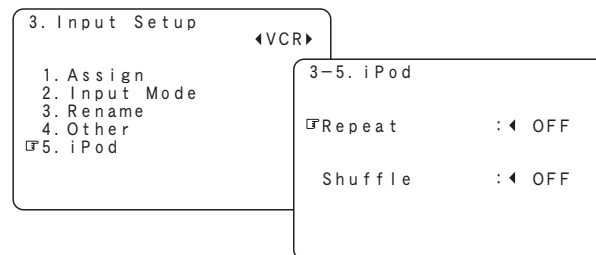
- “Setup Lock” を “ON” に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、関連するボタンを操作すると、ディスプレイに “SETUP LOCKED!” が表示されます。
  - · メニュー操作
  - · RESTORER
  - · ナイトモード
  - · パラメーター
  - · ルーム EQ
  - · チャンネルレベル
  - · オーディオディレイ
- 設定を解除する場合は、本体の **MENU** ボタンまたはリモコンの **A. MENU** ボタンを押して再度 “Setup Lock” 画面を表示させ、“OFF” に設定し直してください。

Input Setup（入力の設定）

入力ソースの選択や入力ソースの再生に関する設定をします。

❏ DVD/HDP、TV/CBL、VCR、DVR、V.AUX、TUNER、CD、AUX

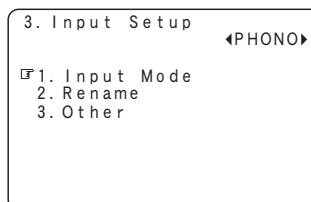
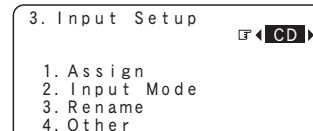
入力ソース “DVD/HDP” “TV/CBL” “VCR” “DVR” “V.AUX” “TUNER” “CD” “AUX” のメニューです。

●メニュー画面●

※これらの入力ソースは、“iPod dock” を “Assign” に設定しているときに、以下のメニューの設定ができます。

❏ PHONO

入力ソース “PHONO” のメニューです。

●メニュー画面●

“Input Setup” 内での入力ソースの変えかた

```
3. Input Setup
                    ☞◀ CD ▶
 1. Assign
 2. Input Mode
 3. Rename
 4. Other
```

“Input Setup” 内で入力ソースを変えても、現在の選ばれているソースは変わりません。

入力ソースに関する設定

Assign（端子の割り当て）

このソースに割り当てる入力端子を選びます。

HDMI In（HDMI 端子）

このソースに割り当てる HDMI 入力端子を選びます。

【入力ソース】 DVD/HDP　TV/CBL　VCR　DVR　V.AUX

【選択できる項目】

HDMI1 ：HDMI1 入力端子を割り当てます。
HDMI2 ：HDMI2 入力端子を割り当てます。
None ：HDMI 入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD/HDP	TV/CBL	VCR	DVR	V.AUX
初期設定	**HDMI1**	**HDMI2**	None	None	None

- HDMIでは、映像信号と音声信号を同時に伝送します。“HDMI In”で割り当てた映像信号と“Digital In”で割り当てた音声信号を組み合わせて再生したい場合は、メニューの“Input Mode”を“DIGITAL”に設定してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブルで接続したとき、テレビがHDMI音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。
- アナログ端子、デジタル端子およびEXT.IN端子から入力された音声信号は、テレビには出力されません。

Digital In（デジタル端子）

このソースに割り当てるデジタル入力端子を選びます。

【入力ソース】 DVD/HDP　TV/CBL　VCR　DVR　V.AUX　TUNER　CD　AUX

【選択できる項目】

COAX1 ：COAXIAL 1 入力端子を割り当てます。
COAX2 ：COAXIAL 2 入力端子を割り当てます。
COAX3 ：COAXIAL 3 入力端子を割り当てます。
OPT1 ：OPTICAL 1 入力端子を割り当てます。
OPT2 ：OPTICAL 2 入力端子を割り当てます。
OPT3 ：OPTICAL 3 入力端子を割り当てます。
None ：デジタル入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD/HDP	TV/CBL	VCR	DVR	V.AUX	TUNER	CD	AUX
初期設定	**COAX1**	**COAX2**	None	**OPT2**	**OPT3**	None	**COAX3**	**OPT1**

Component In（コンポーネント端子）

このソースに割り当てるコンポーネントビデオ（D）入力端子を選びます。

【入力ソース】 DVD/HDP　TV/CBL　VCR　DVR　V.AUX

【選択できる項目】

1-D ：コンポーネントビデオ 1 入力端子を割り当てます。
2-D ：コンポーネントビデオ 2 入力端子を割り当てます。
3-D ：コンポーネントビデオ 3 入力端子を割り当てます。
None ：コンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。

入力ソース	DVD/HDP	TV/CBL	VCR	DVR	V.AUX
初期設定	**1-D**	**2-D**	None	**3-D**	None

iPod dock

このソースに iPod 用コントロールドックを割り当てます。

【入力ソース】 DVD/HDP　TV/CBL　VCR　DVR　V.AUX　TUNER　CD　AUX

【選択できる項目】

Assign ：iPod dock の入力を割り当てます。
None ：iPod dock の入力を割り当てません。

初期設定では、iPod 用コントロールドックを VCR（iPod）端子に接続して、お使いいただけます。

Input Mode（入力モード）

このソースの入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースや“Assign”の設定によって異なります（☞33 ページ）。

Input Mode（入力モード）

このソースの入力モードを設定します。

【入力ソース】 PHONO

【選択できる項目】

Analog : アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
EXT. IN : 外部入力端子からの入力信号のみを再生します。

【入力ソース】 DVD/HDP TV/CBL VCR DVR V.AUX TUNER CD AUX

【選択できる項目】

AUTO : 本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI ＊1 : HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。TUNER、CD および AUX は除きます。
Digital ＊2 : デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。
Analog : アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。
EXT. IN : 外部入力端子からの入力信号のみを再生します。

＊1 : メニューの“Assign”の設定で“HDMI”を割り当てている入力ソースに対して選べます（☞33 ページ）。
＊2 : メニューの“Assign”の設定で“DIGITAL”を割り当てている入力ソースに対して選べます（☞33 ページ）。

- デジタル信号が正しく入力されると、ディスプレイの“DIG.”表示が点灯します。“DIG.”表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当てや接続を確認してください。
- 入力モードが“EXT. IN”の場合は、サラウンドモードの設定ができません。

本体やリモコンでも操作できます

【本体での操作】

❏“AUTO”、“HDMI”または“Digital”モードの選択
INPUT MODE ボタンを押す。

❏アナログモードの選択
ANALOG ボタンを押す。

❏EXT. INモードの選択
EXT. IN ボタンを押す。

【リモコンでの操作】

INPUT ボタンを押す。

Decode Mode（デコードモード）

このソースのデコードモードを設定します。

【入力ソース】 DVD/HDP TV/CBL VCR DVR V.AUX TUNER CD AUX

【選択できる項目】

AUTO : デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。
PCM : PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。
DTS : DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。

- メニューの“Assign”の設定で“HDMI”または“Digital”を割り当てている入力ソースに対して選ぶことができます（☞33ページ）。
- “PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときのみ設定してください。

Rename（入力名の変更）

このソースの表示名を変更します。
8 文字まで入力することができます。

【入力できる文字】

A ~ Z　a ~ z　0 ~ 9　! # % & ' ( ) * + , - . / : ; = " ? @ [\ ]（空白）

Other（その他の設定）

入力ソースに関するその他の設定をします。

Video Select（ビデオセレクト）

音声を聴きながら映像の入力ソースを切り替えます。

【選択できる項目】

DVD/HDP **TV/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX** : 見たい映像の入力ソースを選びます。

Source : 入力ソースと同じ映像と音声を再生します。

本体やリモコンでも操作できます

好きな映像が出るまで本体の **VIDEO SELECT** ボタンまたは、リモコンの **V. SELECT** ボタンを押す。

※ 解除する場合は、本体の **VIDEO SELECT** ボタンまたは、リモコンの **V. SELECT** ボタンを押して、“Source”を選んでください。

ご注意

- HDMI の入力信号は選べません。
- HDMI を再生中、HDMI モニター出力に他の入力ソースは出力できません。
- “Source Delete”で“Delete”に設定した入力ソースは選べません。

Video Convert（ビデオコンバート）

映像入力信号をモニター出力に自動的に変換します。

【入力ソース】 **DVD/HDP** **TV/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX**

【選択できる項目】

ON : 変換します。

OFF : 変換しません。

ご注意

ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このようなときは、“Video Convert”を“OFF”に設定してください。

Source Level（ソースレベル）

選んだ入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。

【可変できる範囲】 **–12dB** ~ **0dB** ~ **+12dB**

メニューの“Assign”の設定で“HDMI”または“DIGITAL”を割り当てている入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

iPod

iPod の再生の設定をします。

【入力ソース】 **DVD/HDP** **TV/CBL** **VCR** **DVR** **V.AUX** **TUNER** **CD** **AUX**

Repeat（リピート）

リピートモードの設定をします。

【選択できる項目】

All : すべての曲をリピート再生します。

One : 再生中の曲をリピート再生します。

OFF : リピート再生モードを解除します。

Shuffle（シャッフル）

シャッフルモードの設定をします。

【選択できる項目】

Songs : すべての曲の中からシャッフル再生します。

Albums : 再生中のアルバムの中の曲でシャッフル再生します。

OFF : シャッフル再生モードを解除します。

“iPod dock”の設定でiPod dockを割り当てた入力ソースに対して設定できます。

Surround Modes（サラウンドモード）

スタンダード再生

プログラムソースに合わせて、サラウンド再生を楽しむスタンダードなモードです。

2 チャンネルのソースをサラウンド再生する場合

これらのサラウンドモードを選ぶ場合は、リモコンの **STD** ボタンを押してください。ボタンを押すたびに、モードが切り替わります。

❏サラウンドバックスピーカーを使用している場合

【選択できる項目】 **DOLBY PLⅡx** **DTS NEO:6**

❏サラウンドバックスピーカーを使用していない場合

【選択できる項目】 **DOLBY PLⅡ** **DTS NEO:6**

DOLBY PLⅡx または **DOLBY PLⅡ** :DOLBY PLⅡxまたはDOLBY PLⅡでデコードして、サラウンド再生します。

Cinema :映画ソースに適したモードです。

Music :音楽ソースに適したモードです。

Game :ゲームに適したモードです。

Pro Logic :プロロジック再生モードです。PLⅡデコーダーで再生する場合に選べます。このモードを選ぶと、表示は“DOLBY PL”になります。

DTS NEO:6 :DTS NEO:6でデコードしてサラウンド再生します。

Cinema :映画ソースに適したモードです。

Music :音楽ソースに適したモードです。

“Cinema”、“Music”、“Game”、“Pro Logic”モードは、メニューの“Parameter”-“Surround Parameter”-“MODE”で選んでください（☞38ページ）。

マルチチャンネルのソースを再生する場合 (Dolby Digital,DTS,AAC など)

【選択できる項目】

STANDARD :

入力信号のフォーマットに応じてデコードし、サラウンド再生するモードです。
STANDARDモードを選んだときの表示は、入力信号やサラウンドバック出力の再生モードによって変わります。

入力信号		ディスプレイ表示
Dolby Digital ソース	DOLBY DIGITAL（2ch 以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL
		DOLBY DIGITAL EX
		DOLBY DIGITAL+PLⅡx CINEMA
		DOLBY DIGITAL+PLⅡx MUSIC
DTS Surround ソース	DTS（5.1ch）/ DTS-ES Discrete 6.1 / DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND
		DTS+PLⅡx CINEMA
		DTS+PLⅡx MUSIC
		DTS+NEO:6
		DTS ES MTRX6.1（＊1）
		DTS ES DSCRT6.1（＊2）
		DTS 96/24（＊3）
MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC（5.1ch）	MPEG2 AAC
		AAC + Dolby EX
		AAC + PLⅡx CINEMA
		AAC + PLⅡx MUSIC
	MPEG-2 AAC（1 + 1ch）	MPEG2 AAC
DVD-Audio	PCM（multi ch）	MULTI CH IN
		MULTI IN+PLⅡx CINEMA
		MULTI IN+PLⅡx MUSIC
		MULTI CH IN 7.1

＊1： 入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”で、本機の“AFDM”の設定が“ON”のときに表示されます。
＊2： 入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示されます。
＊3： 入力信号が“DTS 96/24”のときに表示されます。

詳しくは、60ページをご覧ください。

MPEG-2 AACについて

- AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC出力が“オフ”になっていたり、AAC信号をPCM信号に変換する設定になっている場合があります。
  テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声やAAC出力の設定をご確認ください。詳しくはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

❏入力信号チャンネル表示について

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

●2チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

リモコンの **STD** ボタンを押すと、“DOLBY PLⅡx”モードと“DTS NEO:6”モードを切り替えることができます。

●5.1チャンネルソース

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

リモコンの **STD** ボタンを押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、“MPEG2 AAC”を表示します。

●モノラルソース

リモコンの **STD** ボタンを押すと、“MPEG2 AAC”が表示されます。
音声は、センタースピーカーより出力されます。
フロントスピーカーで再生したい場合は、サラウンドモード（“STEREO”など）を選択してください。

●二重音声ソース

FL C FR

FL C FR

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選択できます。
詳しくは、“Bilingual Mode”（☞30 ページ）をご覧ください。

DSP シミュレーション再生

7 通りの DENON オリジナルサラウンドの中から、プログラムソースや視聴するシチュエーションに応じてお好みのモードを選ぶことができます。
サラウンドパラメーター（☞38、39 ページ）を調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

【選択できる項目】

7CH STEREO ：ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。

ROCK ARENA ：アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

JAZZ CLUB ：ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。

MONO MOVIE *：モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。

VIDEO GAME ：ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。

MATRIX ：ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。

VIRTUAL ：フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

*：“MONO MOVIE” モードでモノラル録音ソースを再生する場合、片チャンネル（左または右）では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

- リモコンの **SIMU** ボタンを押してサラウンドモードを切り替えます。
- 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ステレオ再生

【選択できる項目】

STEREO ：

音質調節ができるステレオ再生用のモードです。
フロント左 / 右スピーカーとサブウーハーから音声が出力されます。

リモコンの **D/ST** ボタンを押すたびにDIRECTモードとSTEREOモードを切り替えることができます。

ダイレクト再生

【選択できる項目】

DIRECT ：

音質調節回路を通さず、高音質で再生するモードです。
入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。
DIRECTモードを選んだときの表示は、入力信号によって変わります。
また、マルチチャンネルの場合、サラウンドバック出力の再生モードによって変わります。

入力信号	ディスプレイ表示
アナログ信号 PCM (2ch) DOLBY DIGITAL ソース DTS ソース その他の 2ch のデジタル信号	DIRECT
PCM (multi ch)	MULTI CH DIRECT
	M DIRECT + PLIIx CINEMA
	M DIRECT + PLIIx MUSIC
	M DIRECT 7.1

詳しくは、61ページをご覧ください。

本体でも操作できます

SELECT/ENTER つまみでサラウンドモードを選ぶ。

ピュアダイレクトモード再生

原音に最も忠実で、極めて高品質な再生ができます。

リモコンの PURE ボタンを押す。

- 解除するときは、もう一度 **PURE** ボタンを押してください。
- PURE DIRECTモード中はメニュー画面は表示されません。また、本体のディスプレイが消灯します。
- HDMI入力端子を選択すると、PURE DIRECTモードでも映像を出力します。
- PURE DIRECTモード時のチャンネルレベルおよびサラウンドパラメーターは、DIRECTモードと共通になります。

Parameter（パラメーター）

●メニュー画面●

```
4.Parameter

☞1.Surround Parameter
  2.Tone Control
  3.Room EQ
  4.RESTORER
  5.Night Mode
  6.Audio Delay
```

1 Surround Parameter
（サラウンドパラメーター）

音場効果を調節します。
調節できるパラメーターは、各サラウンドモードごとに異なります（☞58、59 ページ）。

MODE（モード）

再生するソースに合わせてモードを選びます。

❏DOLBY PLIIx モード時

【選択できる項目】 **PLIIx CINEMA** **PLIIx MUSIC** **PLIIx GAME**

❏DOLBY PLII モード時

【選択できる項目】 **PLII CINEMA** **PLII MUSIC** **PLII GAME** **DOLBY PL**

❏DTS NEO:6 モード時

【選択できる項目】 **CINEMA** **MUSIC**

CINEMA :映画ソースに適したモードです。

MUSIC :音楽ソースに適したモードです。

GAME :ゲームに適したモードです。

PL :ドルビープロロジック再生モードです。

“MUSIC”モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。

CINEMA EQ（シネマ EQ）

映画のセリフの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。

【選択できる項目】

ON : CINEMA EQ を使用します。

OFF : CINEMA EQ を使用しません。

D.COMP（ダイナミックレンジ圧縮）

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を適度に圧縮します。

【選択できる項目】

OFF : ダイナミックレンジを圧縮しません。

LOW : 圧縮率を低く設定します。

MID : 圧縮率を標準に設定します。

HIGH : 圧縮率を高く設定します。

DTSソースを再生する場合は、対応するソフトのみ表示されます。

LFE

低域信号（LFE）レベルの調節をします。

【可変できる範囲】 **–10dB** ~ **0dB**

各プログラムソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
- ドルビーデジタルソース：“0dB”
- DTSの映画ソース：“0dB”
- DTSの音楽ソース：“–10dB”

CENTER IMAGE（センターイメージ）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 **0.0** ~ **0.3** ~ **1.0**

PANORAMA（パノラマ）

フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。

【選択できる項目】 **ON** **OFF**

DIMENSION（ディメンション）

音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。

【可変できる範囲】 **0** ~ **3** ~ **6**

CENTER WIDTH（センター幅）

センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。

【可変できる範囲】 **0** ~ **3** ~ **7**

DELAY TIME（ディレイタイム）

遅延時間を調節し、音場イメージの大きさを広げます。

【可変できる範囲】 **0 ms** ~ **30 ms** ~ **300 ms**

EFFECT LEVEL（エフェクトレベル）

エフェクト信号の大きさを調節します。

【可変できる範囲】 **1** ~ **10** ~ **15**

サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じられる場合は、低いレベルに設定してください。

ROOM SIZE（ルームサイズ）

音場の広がり感のイメージを選びます。

【選択できる項目】

small ：小さな音場空間のイメージ。
med. s ：
medium ：
med. l ：
large ：大きな音場空間のイメージ。

ご注意

“ROOM SIZE”は、再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

AFDM

ソースの識別信号を検出して自動的にサラウンドモードを設定します。
専用の識別信号が記録されたソフトのみに働きます。
再生するソフトがドルビーデジタル EX または DTS-ES で記録されている場合は、6.1 チャンネルで再生し、記録されていない場合は、5.1 チャンネルで再生します。

【選択できる項目】 **ON** **OFF**

【例】ドルビーデジタルソフト（EX フラグあり）の再生
- “AFDM”を“ON”に設定すると、サラウンドモードは自動的に“DOLBY D + PLⅡx C”モードになります。
- DOLBY DIGITAL EX モードで再生する場合は、“AFDM”を“OFF”、“SB CH OUT”を“MTRX ON”に設定してください。

ドルビーデジタル EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。“AFDM”を“ON”に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、“SB CH OUT”を“MTRX ON”または“PLⅡx CINEMA”に設定してください。

SB CH OUT（サラウンドバック）
（マルチチャンネルソースの場合）

サラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

【選択できる項目】

OFF ：サラウンドバックチャンネルは再生されません。
NON MTRX ：サラウンドチャンネルと同じ信号がサラウンドバックチャンネルから再生します。
MTRX ON ：サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理し、サラウンドバックチャンネルから再生します。
PLⅡx CINEMA ＊1：Dolby Pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
PLⅡx MUSIC ＊2：Dolby Pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
ES MTRX ＊3：DTS 信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。.
ES DSCRT ＊4：DTS 信号でディスクリート 6.1ch ソースである認識信号が含まれている場合にソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
DSCRT ON ：DVD などの 7.1ch デジタルディスクリート音声信号に含まれるサラウンドバック信号をディスクリート再生するモードです。

＊1: メニューの“Manual Setup”–“Speaker Setup”–“Speaker Configuration”（☞26 ページ）の設定で、“Surround Back Speaker”が“2spkrs”のときに選べます。
＊2: メニューの““Manual Setup”–“Speaker Setup”–“Speaker Configuration”の設定で、“Surround Back Speaker”が“2spkrs”または“1spkr”のときに選べます。
＊3: DTS ソースを再生しているときに選べます。
＊4: ディスクリート 6.1 チャンネルの信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生しているときに選べます。

SB CH OUT（サラウンドバック）
（2 チャンネルソースの場合）

サラウンドバックスピーカーを使うか使わないかを設定します。

【選択できる項目】

ON ：サラウンドバックを使用する再生をおこないます。
OFF ：サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。

本体の **SURROUND BACK** ボタンでも操作できます。

SW ATT（サブウーハーアッテネーター）

外部入力（EXT. IN）端子使用時のサブウーハーチャンネルのレベルを抑えます。

【選択できる項目】

ON ：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰します。
OFF ：サブウーハーチャンネルからの入力を減衰しません。通常はこのモードでお使いください。

オーディオ信号を再生したときに、サブウーハーチャンネルのレベルが大きいと感じる場合は、“ON”に設定してください。

Subwoofer（サブウーハー）

サブウーハー出力をするかしないかを設定します。

【選択できる項目】

ON ：サブウーハー出力を使用する。
OFF ：サブウーハー出力を使用しない。

Default（初期化）

設定を初期化します。

2 Tone Control（トーンコントロール）

トーンを調節します。

Tone Defeat（トーンデフィート）

トーンの調節をおこなわない場合に設定します。

【選択できる項目】

ON：トーンの調節をしないで再生します。

OFF：低音、高音のトーンを調節できます。

DIRECTモード中は、トーンの調節ができません。

Bass（低音）

低音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 –6dB ~ +6dB

Treble（高音）

高音のトーンを調節します。

【可変できる範囲】 –6dB ~ +6dB

“Bass”および“Treble”は、“Tone Defeat”の設定が“OFF”のときに設定できます。

3 Room EQ（ルーム EQ）

視聴環境に合わせて、お好みのルーム EQ の補正効果を選びます。

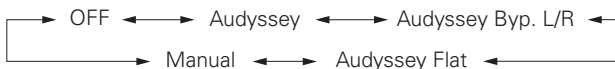
【選択できる項目】

Audyssey：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。

Audyssey Byp. L/R：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。

Audyssey Flat：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。

Manual：“Manual EQ”（☞29 ページ）で調節された周波数特性を適用します。

OFF：イコライザーを使用しません。

- “Audyssey”を選んだときには“AUDYSSEY MULTEQ”表示が点灯します。
- “Audyssey Byp. L/R”または“Audyssey Flat”を選んだとき、またはオートセットアップの測定結果を変更したときには、“AUDYSSEY MULTEQ”表示が点灯します。

- オートセットアップをおこなった後に、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことができます。
- “Auto Setup”で“None”と判定されたスピーカーの設定を変更した場合は、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”を選ぶことはできません。再度測定をしてください。
- ヘッドホン使用時、“Room EQ”は“OFF”になります。

4 RESTORER

圧縮音声を圧縮前に近い状態に復元し、低域と高域の量感を補正して豊かに再生します。

【選択できる項目】

OFF：

RESTORER を使用しません。

Mode1（RESTORER 64）：

高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

Mode2（RESTORER 96）：

圧縮音声全般に対して、低域と高域を共に適切に補正します。

Mode3（RESTORER HQ）：

高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

“iPod”の初期値は、“Mode3”です。その他は、すべて“OFF”に設定されています。

“OFF”以外に設定すると、“RESTORER”表示が点灯します。

RESTORER機能について
●MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。 ●アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときにメニューに表示され、設定することができます。

5 Night Mode（ナイトモード）

夜間に小音量で音声を聞くときに設定します。

【選択できる項目】

OFF：設定しません。

LOW：調節量を弱く設定します。

MID：調節量を標準に設定します。

HIGH：調節量を強く設定します。

リモコンでも操作できます

NIGHT ボタンを押す。

“LOW”“MID”“HIGH”を選んだときに、“NIGHT”表示が点灯します。

6 Audio Delay（オーディオディレイ）

映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。

音声を遅らせる時間を設定します。

【可変できる範囲】 0 ms ～ 200 ms

HDMI やコンポーネントビデオ信号の再生中に、“Audio Delay”の調整をしたい場合は、△ を押して“OSD”を“OFF”にすると映像を見ながら調整することができます。（再度 △ 押すとオンスクリーンディスプレイに切り替わります。）

“EXT. IN”、“DIRECT”および“STEREO”モード（Front Speaker:“Large”、Tone Defeat：“ON”、Room EQ：“OFF”）で再生しているときは、調節できません。

Information（情報）

リモコンの **DISPLAY** ボタンを押すと、ダイレクトに呼び出すことができます。

Status（現在の設定）

現在の設定状態を表示します。

●メニュー画面●

【確認できる項目】

- **Select Source**（選択ソース）
- **Name**（ネーム）
- **Surround Mode**（サラウンドモード）
- **Input Mode**（入力モード）
- **Rec Select**（Recセレクト）
- **Video Select**（ビデオセレクト）
- **Source Level**（ソースレベル）
- **Room EQ**（ルームEQ）
- **Night Mode**（ナイトモード）
- **RESTORER**

表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

Audio Input Signal（音声入力信号）

音声入力信号の情報を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information
 1. Status
☞2. Audio Input Signal
 3. HDMI Information
 4. Auto Surround Mode
 5. Quick Select

5-2. Audio Input Signal
 Surround Mode:
  DOLBY DIGITAL EX

 SIGNAL:Dolby Digital
 fs    :48kHz
 Format:3/2/.1
 Offset:-4dB
```

【確認できる項目】

Surround Mode：設定されているサラウンドモードを表示します。

SIGNAL：入力信号の種類を表示します。

fs：入力信号のサンプリング周波数を表示します。

Format：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無）を表示します。

Offset：ダイアログノーマライゼーションの補正値を表示します。

Flag：入力信号がマトリックス処理されている場合は“MATRIX”、ディスクリート処理されている場合は“DISCRETE”を表示します。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

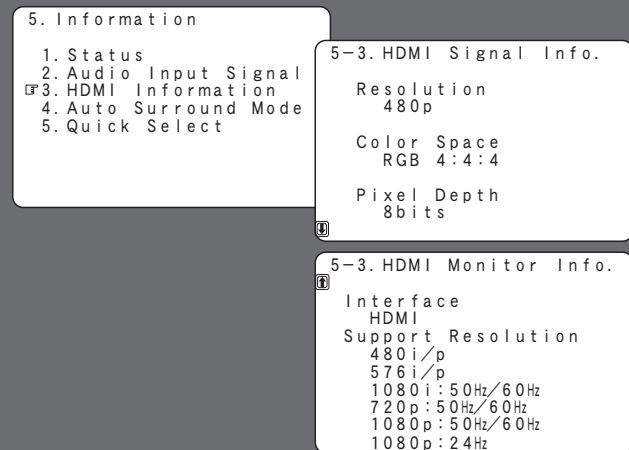
補正値は、**STATUS** ボタンでも確認できます。

```
Dial.Norm
Offset   - 4dB
```

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

HDMI Information（HDMI 情報）

HDMI の入力信号やモニターの情報を表示します。

●メニュー画面●

1 HDMI Signal Information（HDMI 信号情報）

HDMI の入力信号の情報を表示します。

【確認できる項目】

Resolution（解像度） **Color Space**（カラースペース）
Pixel Depth（ビット数）

表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

2 HDMI Monitor Information（HDMI モニター情報）

本機に接続された HDMI モニターの情報を表示します。

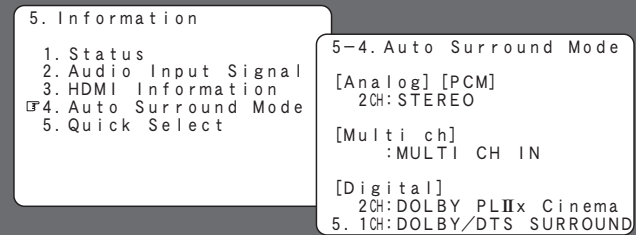
【確認できる項目】

Interface（インターフェース）
Support Resolution（対応解像度）

表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

Auto Surround Mode（オートサラウンドモード）

オートサラウンドモードに記憶されている内容を表示します。
入力信号の種類ごとに、ラストメモリーされているサラウンドモードが表示されます。

●メニュー画面●

【確認できる項目】

Analog/PCM 2CH（アナログ/PCM 2CH）
Multi ch（マルチチャンネル） **Digital 2CH**（デジタル2CH）
Digital 5.1CH（デジタル5.1CH）

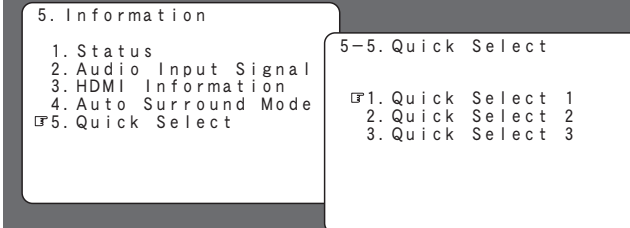
表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

Quick Select（クイックセレクト）

クイックセレクトに記憶している内容を表示します。

●メニュー画面●

```
5. Information
  1. Status
  2. Audio Input Signal
  3. HDMI Information
  4. Auto Surround Mode
☞5. Quick Select

5−5. Quick Select
☞1. Quick Select 1
  2. Quick Select 2
  3. Quick Select 3
```

【確認できる項目】

Name（ネーム） **Input Source**（入力ソース）
Input Mode（入力モード） **Volume Level**（音量レベル）
Analog/PCM 2CH（アナログ/PCM 2CH）
Multi ch（マルチチャンネル） **Digital 2CH**（デジタル2CH）
Digital 5.1CH（デジタル5.1CH）

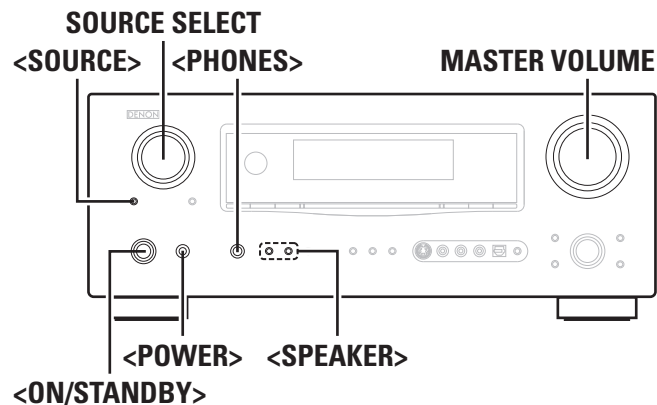
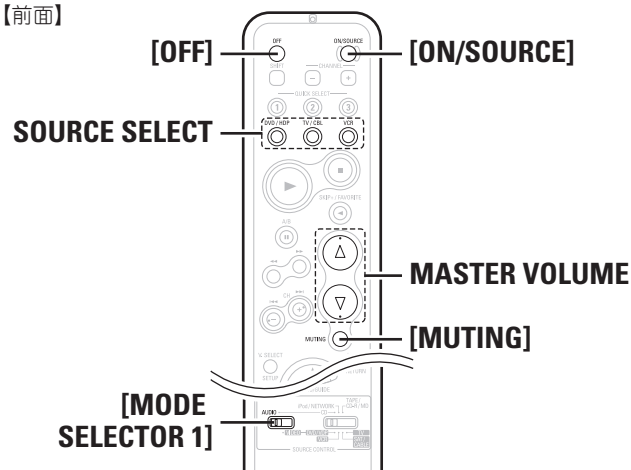
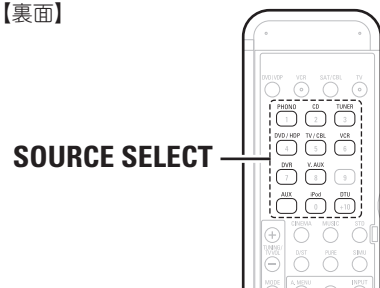
表示される設定内容の説明については、それぞれの設定の項目をご覧ください。

クイックセレクト1～3への記憶のしかたは、47ページをご覧ください。

本体やリモコンでも操作できます

STATUS ボタンを押しても、本機の状態を確認することができます（ディスプレイのみ）。

【前面】

【裏面】

操作説明のボタン名について
＜　　　＞：本体のボタン
[　　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

再生のしかた

準備

電源を入れる

1 **<POWER>** を押す。
電源表示が赤色に点灯して、電源がスタンバイ状態になります。

2 **<ON/STANDBY>** または **[ON/SOURCE]** を押す。
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

電源を切る

① **<ON/STANDBY>** または **[OFF]** を押す。
電源がスタンバイ状態になります。
② **<POWER>** を押す。
電源表示が消灯して、電源が切れます。

ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、**<POWER>** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースの切り替え

本体での操作

<SOURCE SELECT> を回す。

入力ソースに“REC SELECT”を選んでいる場合は、**<SOURCE>** を押してから **<SOURCE SELECT>** を回してください。

リモコンでの操作

[MODE SELECTOR 1] を“AUDIO”に設定してから **[SOURCE SELECT]** を押す。
ダイレクトに入力ソースを選択できます。

再生中にできる操作

主音量の調節

<MASTER VOLUME> を回すか、**[MASTER VOLUME]** を押す。

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTING] を押す。

解除するときは、もう一度 **[MUTING]** を押してください。（主音量を調節しても解除することができます。）

ヘッドホンで音を聴く

<PHONES> に、ヘッドホンのプラグを差し込む。
自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

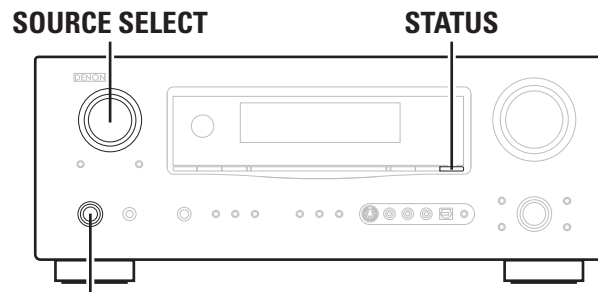
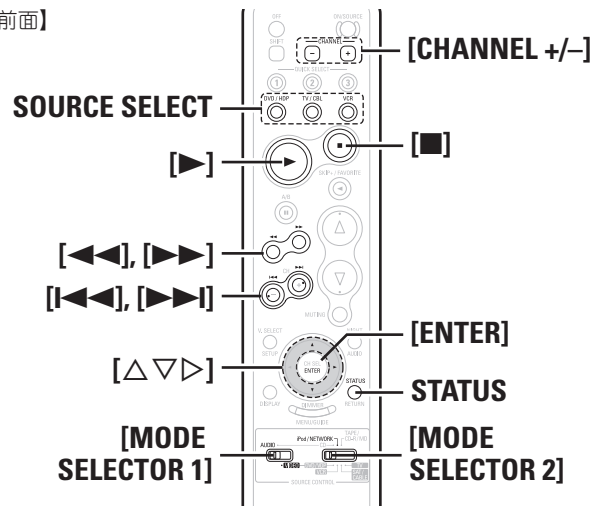
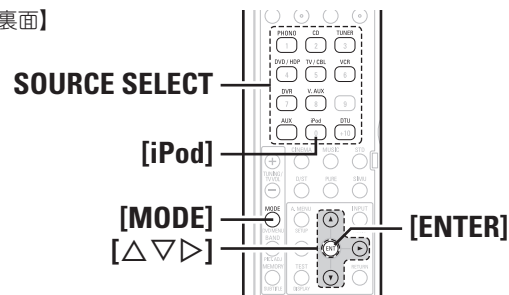
ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。

フロントスピーカーの切り替え

<SPEAKER> を押す。

【前面】

【裏面】

操作説明のボタン名について
<　　　>：本体のボタン
[　　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

映像機器や音声機器の再生

基本操作

1 準備をする。

① DVD や CD などのソフトをセットする。
（☞ 各機器の取扱説明書）
② 映像機器を再生する場合は、モニターの入力を切り替える。
（☞ モニターの取扱説明書）

2 SOURCE SELECT で、本機の入力ソースを切り替える。

3 [MODE SELECTOR 1] を“AUDIO” または“VIDEO”に設定する。
（☞48 ページ「リモコン操作」）

4 [MODE SELECTOR 2] を操作したい機器に合わせて設定する。

5 再生をはじめる。
（☞ 各機器の取扱説明書）

iPod® を再生する

iPod 用コントロールドック（ASD-1R、別売り）を使用することにより、iPod の音楽を再生することができます。本体やリモコンのボタンでも操作できます。

Made for iPod　iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.,の商標または登録商標です。

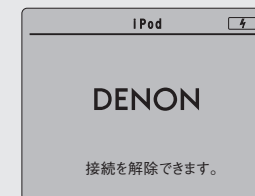
※ iPod は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

基本操作

1 準備をする。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックに、iPod をセットする。
（☞iPod 用コントロールドックの取扱説明書）
② iPod dock の入力を割り当てる。

メニュー：“Input Setup” – “Assign” – “iPod dock”（☞33 ページ）

2 <SOURCE SELECT> を回すか、[iPod] を押して、操作 1- ②で割り当てた入力ソースを選ぶ。

（iPod の画面 ）

※ 上記の画面が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。再度接続をやり直してください。

3 [MODE SELECTOR 1] を “AUDIO”、[MODE SELECTOR 2] を “iPod/NETWORK” に設定する。
（☞48 ページ「リモコン操作」）

- お買い上げ時は、iPod用コントロールドックをVCR（iPod）端子に接続してお使いいただけます。
- 圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をするには、RESTORERモードをおすすめします（☞40ページ）。お買い上げ時は“Mode3”になっています。
- iPodは、**<ON/STANDBY>**で本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。または、iPod dockの入力を割り当てていない入力ソースに切り替えてから、iPodを取り外してください。

ご注意

- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPodのデータが消失または損傷しても、弊社は一切責任を負いません。

音楽を聴く

1 **[△▽] でメニューを選び、[ENTER] または [▷] で再生したい音楽ファイルを選ぶ。**

2 **[ENTER] または [▷] を押す。**
再生がはじまります。

一時停止するには

再生中に **[ENTER]** または **[▶]** を押す。
もう一度押すと、再生を再開します。

早送りや早戻しするには

再生中に **[△]**（早戻し）または **[▽]**（早送り）を長押しするか、**[◀◀]** または **[▶▶]** を押す。

頭出しするには

再生中に **[△]**（前の曲の頭出し）または **[▽]**（次の曲の頭出し）を押すか、**[I◀◀]** または **[▶▶I]** を押す。

停止するには

再生中に **[ENTER]** を長押しするか、**[■]** を押す。

リピート再生するには

[CHANNEL –] を押す。

【選択できる項目】 **All** **One** **OFF**

メニュー： “Input Setup” – “iPod” – “Repeat”
（☞35ページ）

シャッフル再生するには

[CHANNEL +] を押す。

【選択できる項目】 **Albums** **Songs** **OFF**

メニュー： “Input Setup” – “iPod” – “Shuffle”
（☞35ページ）

Browse モードと Remote モードを切り替えるには

[MODE] を長押しする。

- 再生中に **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。
- 本機は、フォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- メニューの“Manual Setup” – “Option Setup” – “On-Screen Display” – “iPod Information”（☞31ページ）で、メニューの表示時間を設定することができます。

iPod の静止画像やビデオを見る

iPod に保存してある写真やビデオのデータをモニターで見ることができます。（スライドショーやビデオ機能がある iPod のみ）

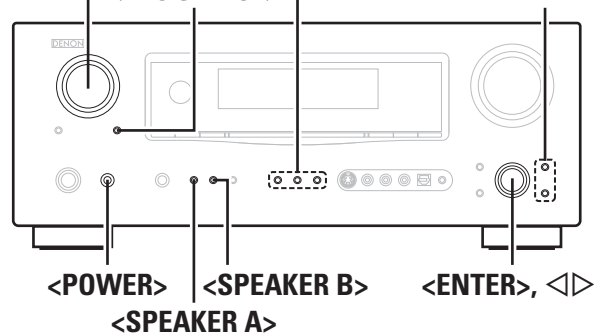
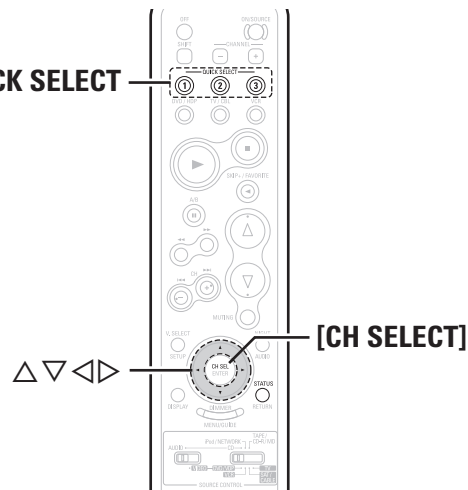
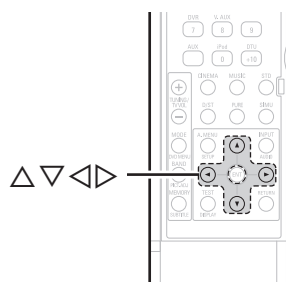
1 **[MODE] を長押しして、Remoteモードにする。**
“Remote iPod”が本機のディスプレイに表示されます。

2 **iPodの画面を見ながら [△▽] を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。**

3 **再生したい画像が表示されるまで、[ENTER]を押す。**

iPod の写真データやビデオデータをモニターに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

【前面】

【裏面】

操作説明のボタン名について

<　　　>：本体のボタン
[　　　]：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

その他の操作や機能

その他の操作

外部機器での録音 / 録画（RECOUT モード）

再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。

1 **<REC SELECT> を押す。**
ディスプレイに“RECOUT　SOURCE”が表示されます。

2 **<SOURCE SELECT> を回して、録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**
“REC”表示が点灯します。

3 **プログラムソースを再生する。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

4 **録音/録画をはじめる。**
操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<REC SELECT>** を押してから、ディスプレイに“RECOUT SOURCE”が表示されるまで、**<SOURCE SELECT>** を回してください。
- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。
- 現在選ばれているソースをデジタル出力端子（OPTICAL 2）から出力します。
- REC SELECT モードで選ばれているソースとデジタル出力端子（OPTICAL 2）からの出力は連動しません。

ご注意

- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- “Source Delete”で“Delete”に設定した入力ソースは選択できません。

便利な機能

チャンネルレベルの調節

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

1 **<ENTER> または [CH SELECT] を押す。**

2 **△▽、<ENTER> または [CH SELECT] でスピーカーを選ぶ。**
ボタンを押すたびにスピーカーが切り替わります。

3 **◁ ▷ で音量を調節する。**
サブウーハーの音量は、“-12dB”に設定されているときに、◁ を押すと“OFF”に設定することができます。

フェーダー機能

フロント側またはリア側のスピーカーの音量をまとめて調節（減衰）します。

1 **<ENTER> または [CH SELECT] を押す。**

2 **△▽、<ENTER> または [CH SELECT] で、"Fader"を選ぶ。**

3 **◁ ▷ でスピーカーの音量を調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

- フェーダー機能は、サブウーハーには働きません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、–12dB になるまで調節できます。

クイックセレクト機能

現在再生中の入力ソースや入力モード、サラウンドモード、ルーム EQ、音量を記憶させます。

1 **入力ソースや入力モード、サラウンドモード、ルームEQ、音量を記憶させたい状態にする。**

2 **クイックセレクト表示が点灯するまで、QUICK SELECT を長押しする。**

【お買い上げ時の設定】

	入力ソース	音量
クイックセレクト1	DVD/HDP	–40 dB
クイックセレクト2	TV/CBL	–40 dB
クイックセレクト3	VCR	–40 dB

- 設定を呼び出すときは、呼び出したい設定が記憶されている **QUICK SELECT** を押してください。
- クイックセレクトの名前を変更することができます（☞31 ページ）。

ご注意

メニューの"Manual Setup"–"Option Setup"–"Source Delete"（☞31 ページ）で、クイックセレクトに記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。この場合は、再度記憶させてください。

パーソナルメモリープラス機能

最後に選ばれた入力モードやサラウンドモードの設定を、入力ソースごとに設定します。
入力ソースに切り替えると、自動的に前回使用されたときの設定になります。

サラウンドパラメーター、トーンコントロール、ルーム EQ の設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いた場合でも、各種設定をバックアップして約 1 週間保持します。

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

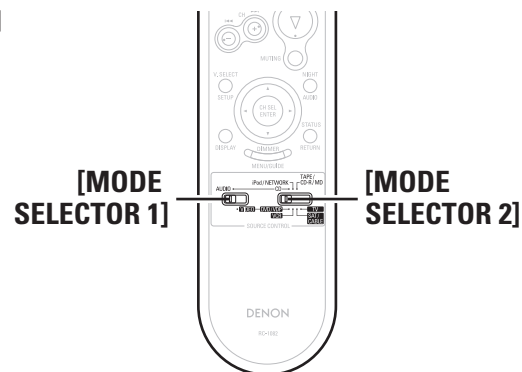
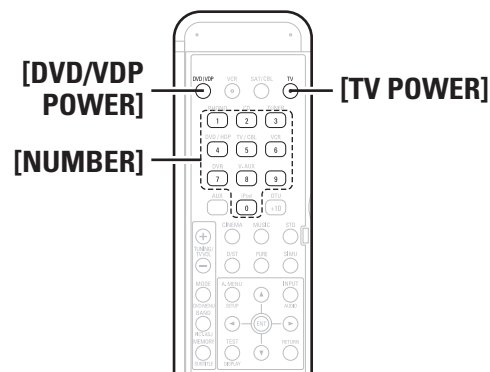
1 **<POWER> を押して電源を切る。**

2 **<SPEAKER A> と <SPEAKER B> を同時に押しながら、<POWER> を押す。**

3 **ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅したら、2つのボタンから指を離す。**

操作 3 でディスプレイ表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、もう一度操作 1 からやり直してください。

リモコン操作

【前面】

【裏面】

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

DENON 製オーディオ機器を操作する

1 **[MODE SELECTOR 1] を “AUDIO” に切り替える。**

2 **[MODE SELECTOR 2] を操作したい機器（CD、iPod/NETWORK または TAPE/CD-R/MD）に切り替える。**

3 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

プリセット登録する

- 付属のリモコンにプリセット登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。
- 機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。

1 **[MODE SELECTOR 1] を“AUDIO”または“VIDEO”に切り替える。**

※ **[MODE SELECTOR 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD または TAPE/CD-R/MD を操作する場合。
VIDEO：DVD/VDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[MODE SELECTOR 2] をメモリーしたい機器に切り替える。**

3 **[DVD/VDP POWER] と [TV POWER] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、メモリーする機器のメーカーの番号（3 桁）を [NUMBER] を押して入力する。**

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合：操作 1 ～ 4 をくり返しおこなう。**

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。
- TAPE/CD-R/MD、DVD/VDP および SAT/CABLE は、いずれか一つの機器しかプリセットメモリーできません。

プリセット登録した機器を操作する

1 **[MODE SELECTOR 1] を“AUDIO”または“VIDEO”に切り替える。**

※ **[MODE SELECTOR 1]** は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD または TAPE/CD-R/MD を操作する場合。
VIDEO：DVD/VDP、VCR、SAT/CABLE または TV を操作する場合。

2 **[MODE SELECTOR 2] を操作したい機器に切り替える。**

3 **機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

機器ボタンごとのボタンのはたらき

❏ 前面

<table>
<tr><th>操作機器</th><th>CD
プレーヤー</th><th>iPod</th><th>CD
レコーダー</th><th>MD
レコーダー</th><th>テープ
デッキ</th><th>DVD
プレーヤー</th><th>ビデオ
ディスク
プレーヤー</th><th>ビデオ
デッキ</th><th>衛星
チューナー</th><th>ケーブル
テレビ</th><th>テレビ
（モニター）</th></tr>
<tr><td>MODE SELECTOR 1</td><td colspan="5">AUDIO</td><td colspan="6">VIDEO</td></tr>
<tr><td>MODE SELECTOR 2</td><td>CD</td><td>iPod/
NETWORK</td><td colspan="3">TAPE / CD-R / MD</td><td colspan="2">DVD / VDP</td><td>VCR</td><td colspan="2">SAT / CABLE</td><td>TV</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td colspan="5">–</td><td>電源オフ</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>ON/SOURCE</td><td colspan="5">–</td><td>電源オン</td><td colspan="5">電源オン / スタンバイ</td></tr>
<tr><td>CHANNEL +</td><td>–</td><td>1 曲 /
アルバム
シャッフル
再生</td><td colspan="3">–</td><td colspan="6">チャンネル切り替え（+）</td></tr>
<tr><td>CHANNEL –</td><td>–</td><td>1 曲 /
全曲
リピート
再生</td><td colspan="3">–</td><td colspan="6">チャンネル切り替え（–）</td></tr>
<tr><td>▶</td><td>再生</td><td>再生 /
一時停止</td><td colspan="6">再生</td><td colspan="3" rowspan="6">パンチスルー</td></tr>
<tr><td>■</td><td colspan="8">停止</td></tr>
<tr><td>❚❚, A/B</td><td>一時停止</td><td>–</td><td colspan="2">一時停止</td><td>A/B
切り替え</td><td colspan="3">一時停止</td></tr>
<tr><td>◀,
DISC SKIP +</td><td>ディスク
スキップ
＋</td><td colspan="3">–</td><td>リバース
再生</td><td>ディスク
スキップ</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>◀◀ ▶▶</td><td colspan="4">マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）</td><td>巻戻し /
早送り</td><td colspan="3">マニュアルサーチ
（早戻し / 早送り）</td></tr>
<tr><td>❙◀◀ ▶▶❙
VCR CH + / –</td><td colspan="4">オートサーチ（頭出し）</td><td>–</td><td colspan="2">オートサーチ
（頭出し）</td><td>チャンネル
切り替え
（+、–）</td></tr>
<tr><td>SETUP</td><td colspan="5">–</td><td>セット
アップ</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>△ ▽ ◁ ▷</td><td>–</td><td>カーソル</td><td colspan="3">–</td><td>カーソル
操作</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">カーソル操作</td></tr>
<tr><td>AUDIO</td><td colspan="5">–</td><td>音声
切り替え</td><td colspan="5">–</td></tr>
<tr><td>ENTER</td><td>–</td><td>確定</td><td colspan="3">–</td><td>設定の
確定</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">設定の確定</td></tr>
<tr><td>DISPLAY</td><td colspan="5">–</td><td>ディスプ
レイ
切り替え</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">ディスプレイ切り替え</td></tr>
<tr><td>RETURN</td><td colspan="5">–</td><td>リターン</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">リターン</td></tr>
<tr><td>MENU</td><td colspan="5">–</td><td>メニュー
呼び出し</td><td colspan="2">–</td><td colspan="3">メニュー呼び出し</td></tr>
</table>

❑ 裏面

操作機器	CD プレーヤー	iPod	CD レコーダー	MD レコーダー	テープ デッキ	DVD プレーヤー	ビデオ ディスク プレーヤー	ビデオ デッキ	衛星 チューナー	ケーブル テレビ	テレビ（モニター）
MODE SELECTOR 1	**AUDIO**					**VIDEO**					
MODE SELECTOR 2	**CD**	**iPod/ NETWORK**	**TAPE / CD-R / MD**			**DVD / VDP**		**VCR**	**SAT / CABLE**		**TV**
POWER	–					電源オン/電源オフ					
NUMBER (0 ~ 9, +10)	–					数字入力/選曲		–	チャンネル		
TV VOL (+, –)	–					音量調節（+、–）					
MODE / DVD MENU	–	Browse/ Remote モード 切り替え （長押し）	–			メニュー 呼び出し	–		メニュー呼び出し		
SETUP	–					セット アップ	–				
△ ▽ ◁ ▷	–					カーソル 操作	–		カーソル操作		
AUDIO	–					音声	–				
PICTURE ADJUST	–					画質調整	–				
ENTER	–					設定の 確定	–		設定の確定		
SUBTITLE	–					サブ タイトル	–				
DISPLAY	–					ディスプ レイ 切り替え	–		ディスプレイ切り替え		
RETURN	–					リターン	–		リターン		
初期設定（プリセットコード）	DENON（111）	–	DENON（151）	–		DENON（111）	–	HITACHI（108）	–	ABC（007）	HITACHI（134）
特記事項	①	–	①			①、②		①	①、③		①、③

【特記事項】

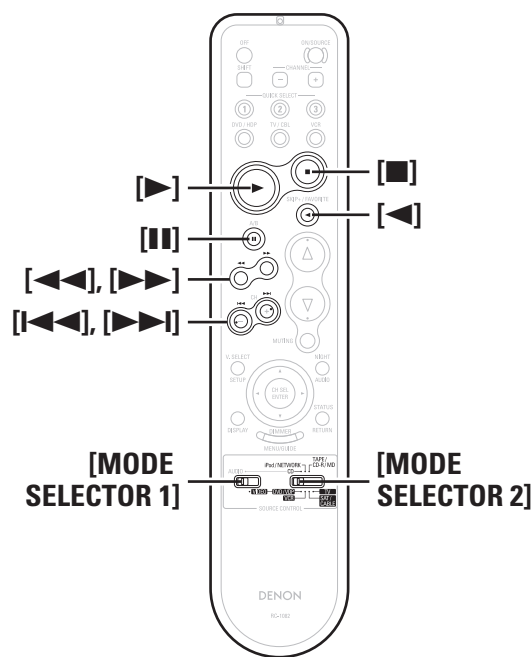
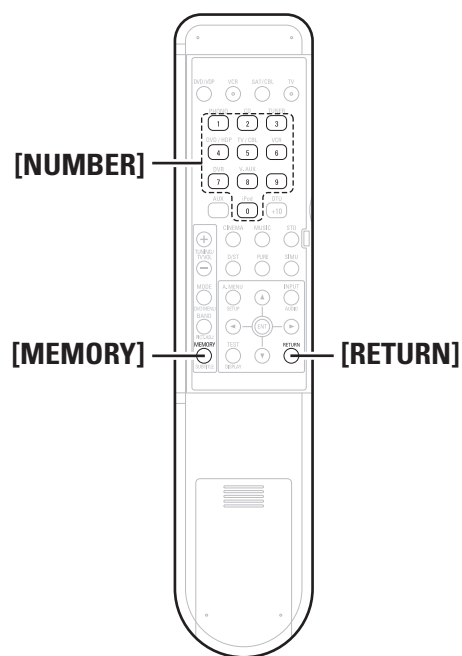
① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセット登録することができません。また、新しいコードをプリセット登録すると前のコードは自動的に消去されます。

② DVD のリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ TV と SAT/CBL モードには、CD、iPod/NETWORK、TAPE/CD-R/MD、DVD/VDP、VCR のいずれかのボタンを割り当てることができます（☞51 ページ「パンチスルー機能」）。

ご注意

[TUNING +, –]、**[BAND]** および **[MEMORY]**（**[MODE SELECTOR 1]** が“AUDIO”のとき）と **[SHIFT]** は効きません。

【前面】

【裏面】

パンチスルー機能

パンチスルーは、**[MODE SELECTOR 2]** が "SAT/CABLE" または "TV" の位置でも CD、iPod/NETWORK、TAPE/CD-R/MD、DVD/VDPまたはVCRの再生(▶)、停止(■)、一時停止（II）、ディスクスキップ（◀）、早送り（▶▶）、巻き戻し（◀◀）およびサーチ（I◀◀ ▶▶I）を操作できる機能です。

※ お買い上げ時は、"設定なし" に設定されています。

1 **[MODE SELECTOR 1] を "VIDEO" に切り替える。**

2 **[MODE SELECTOR 2] をパンチスルーさせたい機器（SAT/CABLE または TV）に切り替える。**

3 **[MEMORY] と [RETURN] を同時に押す。**
送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
iPod/NETWORK	2
TAPE/CD-R/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0

アンプアサインの設定と接続について

本機は、次の再生に対応しています。

- **バイアンプ再生（フロントスピーカー）**
- **5.1 チャンネル←→ 2 チャンネル自動切り替え**

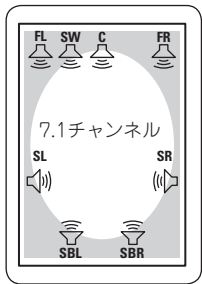
「設定 1」〜「設定 3」の中からお好みの再生環境を選び、"Manual Setup" – "Option Setup" – "Amp Assign"（☞30 ページ）で該当するアンプアサインモードを設定してください。
また、スピーカーの接続も「アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー」の説明の通りにおこなってください。

ご注意

- バイアンプ再生には、バイアンプ接続対応の端子を持つスピーカーをお使いください。
- バイアンプ接続のときは、スピーカー端子の短絡板または短絡用ワイヤーを外してください。

「設定 2」はスピーカーの接続を変えずに、アンプアサインモードを "5.1 チャンネルモード" または 2 チャンネルモードに切り替えて再生することができます。

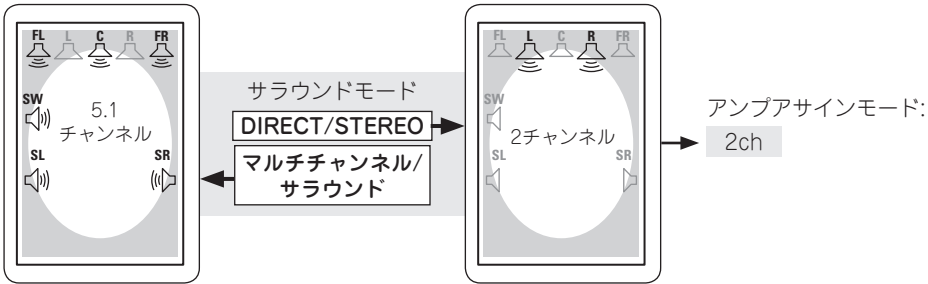
設定 1:

● 7.1 チャンネル再生

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子 ＼ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR		SURR. BACK/ AMP ASSIGN	
	R	L		R	L	R	L
7.1ch	FR	FL	C	SR	SL	SBR	SBL

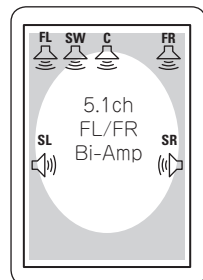
設定 2: 次の再生を切り替えておこなうことができます。

● 5.1 チャンネル再生 ←→ 2 チャンネル再生

切り替え……………………サラウンドモードの切り替え

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

スピーカー端子 ＼ アンプアサインモード	FRONT		CENTER	SURR		SURR. BACK / AMP ASSIGN	
	R	L		R	L	R	L
2ch	FR	FL	C	SR	SL	FR	FL

設定 3:

● FL/FR チャンネルをバイアンプ接続して 5.1 チャンネル再生をする場合

❑ アンプアサインモードの設定と各スピーカー端子に接続するスピーカー

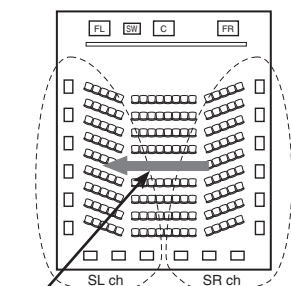
スピーカー端子 ＼ アンプアサインモード	FRONT-A		FRONT-B		CENTER	SURR		SURR. BACK / AMP ASSIGN	
	R	L	R	L		R	L	R	L
Front A Bi-Amp	FR-A	FL-A	FR-B	FL-B	C	SR	SL	FR	FL
								FL-A/FR-A バイアンプ接続	
Front B Bi-Amp	FR-A	FL-A	FR-B	FL-B	C	SR	SL	FR	FL
								FL-B/FR-B バイアンプ接続	

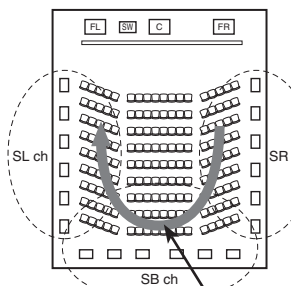
その他の情報

スピーカーの設置について

サラウンドバックスピーカーについて

5.1 チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加することにより、真後ろへの定位を容易に実現できます。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1ch システムによる定位・音像の変化

SR → SL と移動する音像の動き

6.1ch システムによる定位・音像の変化

SR → SB → SL と移動する音像の動き

また、6.1 チャンネルで録音されたソースだけでなく、従来の 2 ～ 5.1 チャンネルソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。

サラウンドバックスピーカーの本数について

2 本のスピーカーを使用することをおすすめします。
特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、必ず 2 本使用してください。

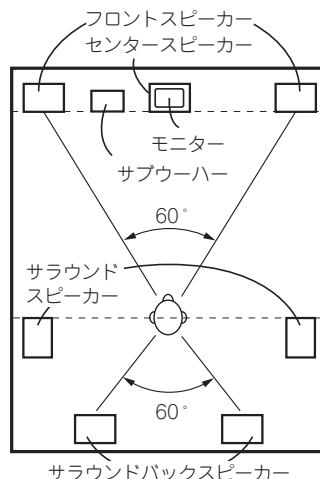
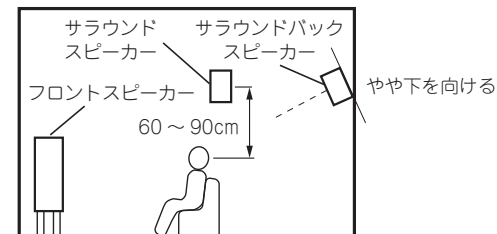
サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンド L、R チャンネルの設置について

サラウンド L、R チャンネルのスピーカーをやや前寄りに設置することをおすすめします。

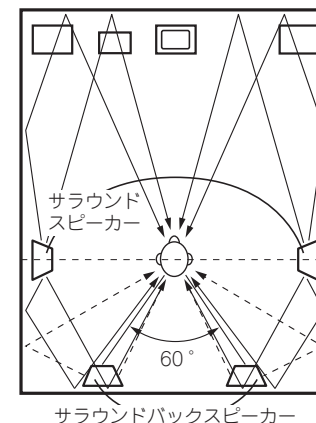
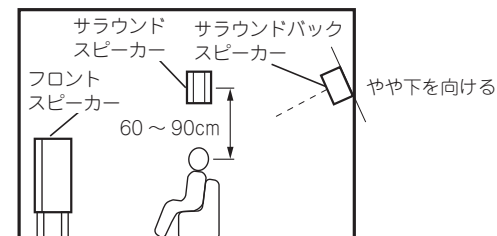
スピーカーの設置例

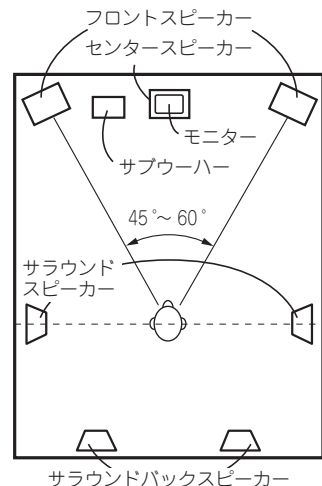
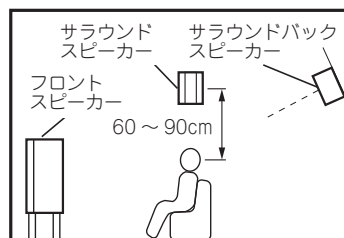
次にスピーカーの配置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて配置してください。

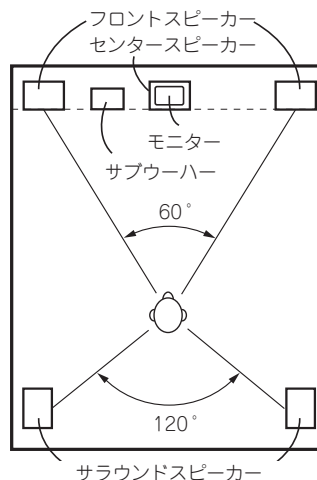
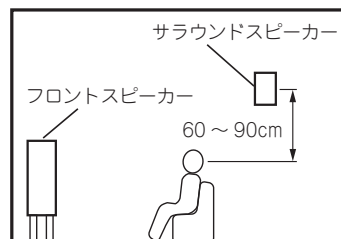
【1】 サラウンドバックスピーカーを使用する場合

① 主に映画再生をおこなう場合
ご使用になるサラウンドスピーカーがシングルウェイまたは 2 ウェイスピーカーの場合におすすめします。

【上面から見た図】

【側面から見た図】

② 映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合
映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を①に比べてやや前寄りにします。

サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

【上面から見た図】

【側面から見た図】

③ 映画再生または音楽再生のサラウンドスピーカーを使用する場合

【上面から見た図】

【側面から見た図】

【2】 サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

【上面から見た図】

【側面から見た図】

サラウンドについて

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンド

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド 2 チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz 〜 20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

ご使用になる前に　接続のしかた　セットアップ　再生のしかた　リモコン操作　アンプアサイン　その他の情報　故障かな？と思ったら　保証とサービス

ドルビープロロジック IIx

ドルビープロロジック IIx は、ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

※ ドルビーサラウンド録音されたソースについて
ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。
ドルビーサラウンド対応マーク：DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS サラウンド

DTS デジタルサラウンド

DTS™ デジタルサラウンドは DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1ch のデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ ディスクリート 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1ch のデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ マトリクス 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1ch 音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1ch 音声としてデコードすることも可能です。

DTS NEO:6™ サラウンド

DTS NEO:6 は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した「DTS NEO:6 CINEMA」と、音楽再生に適した「DTS NEO:6 MUSIC」があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1ch となります。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535、7,003,467 号、その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS、DTS Digital Surround、ES および Neo:6 は登録商標であり、 DTS のロゴ、シンボルおよび DTS 96/24 は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc. © 1996-2007 DTS, Inc. 版権所有。

Audyssey MultEQ®

Audyssey MultEQ® は、室内における音響的問題を把握するために、リスニングエリアの音声情報を正確に測定し、それらの結果を組み合わせることで、すべての席における時間応答および周波数特性の双方を補正できる最初の技術です。
Audyssey MultEQ は広いリスニングエリアの周波数特性の問題を補正するだけでなく、全自動サラウンドシステムセットアップも遂行します。
詳しくは、23 ページをご覧ください。

AUDYSSEY MULTEQ

Audyssey MultEQ® は、Audyssey ラボラトリーズの商標です。米国と国内特許出願の 20030235318 および 10/700,220 の下で許可されます。米国共同で外国特許審議中。MultEQ および Audyssey MultEQ ロゴはAudyssey ラボラトリーズの商標です。版権所有。

MPEG-2 AAC について

MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding） は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG-2 AAC のスペック（概要）

- アルゴリズム：MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：
  8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

HDMI とは、DVI（Digital Visual Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。
非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が 1 つの接続でおこなえます。
また、DVI と同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術の HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）にも対応しています。

Deep Color

微小な映像データを増やすことで、色の変化をより滑らかにして、異なる色彩間の微妙なグラデーションを表現することが可能になります。また、黒と白の間に従来よりもより多くのグレーを表現することが可能になります。

xvYCC

次世代の色空間 “xvYCC” は現行のハイビジョンテレビの 1.8 倍の色情報を再現することができます。
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。

“HDMI”、“HDMI ロゴ” および “High-Definition Multimedia Interface”は、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

サラウンドモード	信号と調節可能なモード													
	チャンネル出力					パラメーター　※（　）内は初期値								
	フロント左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	サブウーハー	D.COMP *1	LFE *2	AFDM *1	SB CH OUT	CINEMA EQ	MODE	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	○（0 dB）	○（ON）	○	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	×	×	×	×	×	×
EXT.IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	○（0 dB）	○（ON）	○	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	×	×	○	○（注 1）	○（Cinema）	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	×	◎	○（OFF）	×	×	○	○（注 2）	○（Cinema）	×	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	×	×	○	○（注 1）	○（Cinema）	×	×	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	○（ON）	○	○（OFF）	×	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	○（ON）	○	○（OFF）	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	×	○（0 dB）	○（ON）	○	○（OFF）	×	×	×	×
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	○（medium）	○（10）	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	○（medium）	○（10）	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	○（medium）	○（10）	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	○（medium）	○（10）	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	○	×	×	×	×	○（30 ms）
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○（OFF）	○（0 dB）	×	×	×	×	×	×	×

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
◎：スピーカー有り無しの設定により、ON/OFF 可能
注 1：メニューの “Parameter” - “Surround Parameter” - “MODE” の設定が “CINEMA” のときに選択できます（☞38 ページ）。
注 2：メニューの “Parameter” - “Surround Parameter” - “MODE” の設定が “CINEMA” または “PL” のときに選択できます（☞38 ページ）。

ご注意

*1：ドルビーデジタルおよび DTS 信号再生時
*2：ドルビーデジタル、DTS および DVD オーディオ再生時

サラウンドモード	信号と調節可能なモード									
	パラメーター　※（　）内は初期値									
	Subwoofer ON/OFF	PRO LOGIC IIx/IIx MUSIC モードのみ			NEO:6 MUSIC モードのみ	EXT. IN のみ	Tone Control	Night Mode	Room EQ	RESTORER
		PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT				
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	×	×	×	○（OFF）	○（注 4）	○
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	○（OFF）	○（注 4）	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
EXT.IN	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
MULTI CH IN	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	×	○（OFF）	○（3）	○（3）	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
DOLBY PRO LOGIC II	×	○（OFF）	○（3）	○（3）	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
DTS NEO:6	×	×	×	×	○（0.3）	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
DOLBY DIGITAL	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	×
DTS SURROUND	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（注 5）	○（OFF）	×
MPEG2 AAC	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
ROCK ARENA	×	×	×	×	×	×	○（注 3）	○（OFF）	○（OFF）	○
JAZZ CLUB	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
MONO MOVIE	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
VIDEO GAME	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
MATRIX	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○
VIRTUAL	×	×	×	×	×	×	○（0 dB）	○（OFF）	○（OFF）	○

○：信号有り / 制御可能
×：信号無し / 制御不可能
注 3：Bass +6 dB、Treble +4 dB
注 4：“Direct Mode Setup”の設定により使用できます。
注 5：DTS 96/24 信号が入力されているときは、無効になります。

入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン / サラウンドモード	注	入力信号 アナログ	リニア PCM	DTS: DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS: DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS: DTS (5.1ch)	DTS: DTS 96/24	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL: DOLBY DIGITAL (2ch)	MPEG–2 AAC: AAC (5.1ch)	MPEG–2 AAC: AAC (2ch)	MPEG–2 AAC: AAC (1+1ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (multi ch)	DVD-AUDIO: DVD-Audio (2ch)
STANDARD																	
DTS SURROUND																	
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	● ◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx CINEMA	*2	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx MUSIC	*1	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + NEO:6	*1	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY SURROUND																	
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	● ◎	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○
AAC																	
AAC + DOLBY EX		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×
AAC + PLIIx CINEMA		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
AAC + PLIIx MUSIC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×
MPEG2 AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	●	×	×
MULTI CH IN																	
MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×
MULTI IN + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI IN + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
MULTI CH IN 7.1		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	● ◎ (7.1)	×

注

*1：サラウンドバックスピーカーを “None” に設定している場合は、選択できません。

*2：サラウンドバックスピーカーを “1spkr” または “None” に設定している場合は、選択できません。

●：初期状態で選ばれるモード

◎：“AFDM” が “ON” に設定されているときに固定されるモード

○：選択可能なモード

×：選択不可能なモード

ボタン	サラウンドモード	注	入力信号															
					DTS				DOLBY DIGITAL					MPEG–2 AAC			DVD-AUDIO	
			アナログ	リニアPCM	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)
DIRECT																		
	DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M DIRECT + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M DIRECT + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M DIRECT 7.1		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
PURE DIRECT																		
	PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
	MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M PURE D + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M PURE D + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
	M CH PURE DIRECT 7.1		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×
DSP SIMULATION																		
	7CH STEREO	*3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																		
	STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

注

*1: サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、選択できません。
*2: サラウンドバックスピーカーを“1spkr”または“None”に設定している場合は、選択できません。
*3: サラウンドバックスピーカーを“None”に設定している場合は、“5CH STEREO”を表示します。

●: 初期状態で選ばれるモード
○: 選択可能なモード
×: 選択不可能なモード

映像信号とモニター出力の関係

ビデオコンバート	入力信号				モニター出力			
	HDMI	**COMPONENT**	**S-VIDEO**	**VIDEO**	**HDMI**	**COMPONENT**	**S-VIDEO**	**VIDEO**
ON	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	VIDEO	COMPONENT*1	VIDEO	VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT*1	COMPONENT*1	×	VIDEO
	×	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT*1	COMPONENT*1	COMPONENT	VIDEO
	×	○ (1080p)	○	×	S-VIDEO	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	○	○	S-VIDEO	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	○	×	×	○	HDMI*1	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	HDMI*2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	HDMI*2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i以外)	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i / 576i)	×	×	HDMI	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	VIDEO	VIDEO
	○	○ (480p ~ 720p)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	×	VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	×	○	HDMI*1	COMPONENT*1	COMPONENT	VIDEO
	○	○ (O480i / 576i以外)	○	×	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	○	×	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i以外)	○	○	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i / 576i)	○	○	HDMI*2	COMPONENT*2	S-VIDEO	S-VIDEO

○ : 信号あり
× : 信号なし
480p ～ 720p : 480p/576p/1080i/720p

× : 出力無し
*1 : メニュー表示は VIDEO 信号にスーパーインポーズして出力
*2 : メニュー表示は S-VIDEO 信号にスーパーインポーズして出力

COMPONENT または HDMI：
本体の **MENU** ボタン、リモコンの **A. MENU** ボタンおよび **DISPLAY** ボタン操作時のみオンスクリーンディスプレイ表示

- 入力信号がビデオ、S ビデオおよびコンポーネントビデオの 480i/480p/576i/576p のとき、HDMI へのアップコンバートは "HDMI Setup" - "HDMI Video Setup" - "Resolution" の設定に従って出力します（☞28 ページ）。
- 入力信号がコンポーネントビデオの 1080i/720p のとき、HDMI へのアップコンバートはそのままの解像度または 1080p にアップコンバートして出力されます。

ビデオコンバート	S-VIDEO モニターアウト	入力信号				モニター出力			
		HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
OFF	—	×	×	×	×	×	×	×	×
	—	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO
	—	×	×	○	×	×	×	S-VIDEO	×
	使用	×	×	○	○	×	×	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	×	×	○	○	×	×	—	VIDEO
	—	×	○	×	×	×	COMPONENT	×	×
	—	×	○	×	○	×	COMPONENT*1	×	VIDEO
	—	×	○	○	×	×	COMPONENT*2	S-VIDEO	×
	使用	×	○	○	○	×	COMPONENT*2	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	×	○	○	○	×	COMPONENT*1	—	VIDEO
	—	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	—	○	×	×	○	HDMI	×	×	VIDEO
	—	○	×	○	×	HDMI	×	S-VIDEO	×
	使用	○	×	○	○	HDMI	×	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	○	×	○	○	HDMI	×	—	VIDEO
	—	○	○	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	—	○	○	×	○	HDMI	COMPONENT*1	×	VIDEO
	—	○	○	○	×	HDMI	COMPONENT*2	S-VIDEO	×
	使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT*2	S-VIDEO	VIDEO*2
	未使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT*1	—	VIDEO

○ : 信号あり
× : 信号なし

× : モニター出力しない
*1 : メニュー表示は VIDEO 信号にスーパーインポーズして出力
*2 : メニュー表示は S-VIDEO 信号にスーパーインポーズして出力

COMPONENT または HDMI :
本体の **MENU** ボタン、リモコンの **A. MENU** ボタンおよび **DISPLAY** ボタン操作時のみオンスクリーンディスプレイ表示

故障かな？と思ったら

❏ **各接続は正しいですか**
❏ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
❏ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、弊社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本機のリアパネルおよび電源コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	19
スピーカーから音が出ない。	●入力機器との接続またはスピーカーケーブルの接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12 ～ 18
	●再生したい機器と入力ソースが合っていない。	●接続を確認して、適切な入力ソースを選んでください。	43
	●主音量が小さすぎる。	●主音量を適切な大きさに調節してください。	43
	●消音（ミューティング）モードになっている。	●消音（ミューティング）モードを解除してください。	43
	●ヘッドホンを接続している。	●ヘッドホンを外してください。ヘッドホンを接続していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	43
	●デジタル信号が入力されていない。	●接続を確認し、デジタル入力の設定をした入力ソースを選んでください。	34

症 状	原 因	対 策	関連ページ
ディスプレイの表示が消える。	●ディマー機能で、本機のディスプレイ表示を“OFF”にしている。	●“OFF”以外の設定にしてください。	31
	●PURE DIRECT モードになっている。	●PURE DIRECT モード中は、ディスプレイは消灯します。	37
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	●DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	●DVD プレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVD プレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—
突然電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。	●機器内部の温度上昇により、保護回路が働いている。	●一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	12
		●本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	12
	●スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していたり、芯線が端子から外れて本機のリアパネルに接触したため、保護回路が働いている。	●電源コードを抜き、芯線をしっかりとより直すか、端末処理をするなどした後で、もう一度接続し直してください。	12
	●指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用している。	●スピーカーは、指定のインピーダンスのものを使用してください。	12
	●本機が故障している。	●電源を切り、弊社の修理相談窓口までご連絡ください。	—

【リモコン】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
リモコンを操作しても、正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。	●新しい乾電池と交換してください。	6
	●本体から離れすぎているか、角度が良くない。	●リモコンは、本機から約 7 メートルおよび 30° 以内の範囲で操作してください。	6
	●本機とリモコンの間に障害物がある。	●障害物を取り除いてください。	6
	●乾電池の ⊕ と ⊖ が正しくセットされていない。	●正しい極性でセットしてください。	6
	●本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバータ式蛍光灯の光など）が当たっている。	●受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	6
	●本体とリモコンのリモート ID が合っていない。	●リモート ID を“1”に設定してください。	31

【オーディオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
センタースピーカーから音が出ない。	●テレビやAM放送などのモノラル音源を、"STANDARD"（Dolby/DTS Surround）モードで再生している。	●モノラル音源を再生する場合は、"STANDARD"（Dolby/DTS Surround）以外のサラウンドモードを選んでください。	37
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードが、2チャンネル再生用（"STEREO"、"DIRECT" または "PURE DIRECT" のいずれか）になっている。	●サラウンド再生用のモードにしてください。	37
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	●サラウンドバックスピーカーの設定が "None" になっている。	●サラウンドバックスピーカーを "None" 以外に設定してください。	26
	●6.1/7.1チャンネル再生用のサラウンドモードになっていない。	●サラウンド再生用のモードを選んでください。	37
	●サラウンドバックスピーカーのパワーアンプの割り当てをおこなっている。	●サラウンドバックスピーカーからは音声が出力されません。設定を変更してください。	30
サブウーハーから音が出ない。	●サブウーハーの電源が入っていない。	●サブウーハーの電源を入れてください。	—
	●オートセットアップでサブウーハーが検出されなかったか、"Speaker Configuration" で、サブウーハーを "No" にしている。	●サブウーハーの設定を "Yes" にしてください。	26
	●サブウーハーの出力が正しく接続されていない。	●接続を確認してください。	12
	●サブウーハーのチャンネルレベルが "OFF" になっている。	●サブウーハーのチャンネルレベルを上げてください。	46
リモコンの **TEST** ボタンを押しても、テストトーンが出力されない。	●サラウンドモードが "STANDARD"（Dolby/DTS Surround）モードになっていない。	●サラウンドモードを "STANDARD"（Dolby/DTS Surround）モードにしてください。	36
DTS音声が出力されない。	●DVDプレーヤーの音声出力の設定が、ビットストリームになっていない。	●DVDプレーヤーの設定をしてください。詳しくは、ご使用のプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	●DVDプレーヤーがDTS音声の再生に対応していない。	●DTS対応のプレーヤーをご使用ください。	—
	●本機のデコードモードの設定が、"PCM" になっている。	●デコードモードを "AUTO" または "DTS" にしてください。	34

症 状	原 因	対 策	関連ページ
HDMIオーディオ信号がスピーカーに出力されない。	●HDMIの入力設定が合っていない。	●HDMIオーディオ信号をスピーカーから出力するときは、"AMP" に設定してください。	27
HDMI接続しているテレビから音声が出力されない。	●HDMIの入力設定が合っていない。	●HDMIオーディオ信号をテレビから出力するときは、"TV" に設定してください。	27

【iPod】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
iPodが再生できない。	●iPod dockを割り当てた入力ソースと合っていない。	●iPod dockを割り当てた端子に接続し、入力ソースを切り替えてください。	33
	●ケーブルが正しく接続されていない。	●接続をやり直してください。	15
	●iPod用コントロールドックのACアダプターがコンセントに挿入されていない。	●ACアダプターを挿入していない場合は、本機と通信することができません。	—

【ビデオ】

症 状	原 因	対 策	関連ページ
映像が映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	12 ～ 18
	●本機と接続したモニターの入力端子が入力設定と合っていない。	●モニターの入力端子と入力設定を合わせてください。	—
	●PURE DIRECT モードになっている。	●PURE DIRECT モードを解除してください。	37
	●プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニターとの接続がビデオ端子（黄）または S ビデオ端子になっている。	●ハイビジョン（1080i/720p）やプログレッシブ映像信号（480p/576p）は、ダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレース（480i/576i）の設定にしてください。	—
HDMI 接続で映像が映らない。	●HDMI 端子の接続が不完全である。	●接続を確認してください。	13
	●HDMI の入力設定が合っていない。	●“Input Setup”で HDMI 端子を割り当てた入力ソースを選んでください。	33
	●本機に接続されたモニターなどが、著作権保護（HDCP）に対応していない。	●著作権保護（HDCP）に対応したモニターを接続してください。	13
	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニター側の入力対応フォーマットが合っていない。	●接続されたプレーヤーなどの出力フォーマット（HDMI FORMAT）とモニターの入力対応フォーマットが合っているかを確認してください。	13
録画ができない。	●入力ソースとレコーダーのビデオ接続端子（ビデオ、S ビデオ）が一致していない。	●RECOUT のビデオ端子にはビデオコンバート機能が無いので、入力がビデオの場合はビデオケーブルで、S ビデオの場合は S ビデオケーブルで接続してください。	16、17
DVD から VCR にダビングできない。	—	●故障ではありません。ほとんどの映画ソフトには、コピー防止信号が入っているので、ダビングすることはできません。	—

保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

主な仕様

❑オーディオ部

● パワーアンプ部

定格出力： フロント（A、B）： 100 W+100 W
（負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %）
150 W+150 W
（負荷 6 Ω、JEITA）
センター： 100 W
（負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %）
150 W
（負荷 6 Ω、JEITA）
サラウンド： 100 W+100 W
（負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %）
150 W+150 W
（負荷 6 Ω、JEITA）
サラウンドバック： 100 W+100 W
（負荷 8 Ω、20 Hz ～ 20 kHz T.H.D 0.08 %）
150 W+150 W
（負荷 6 Ω、JEITA）

ダイナミックパワー： 120 W × 2 チャンネル（負荷 8 Ω）
170 W × 2 チャンネル（負荷 4 Ω）

出力端子： フロント： A または B 6 ～ 16 Ω
A + B 12 ～ 16 Ω
センター / サラウンド / サラウンドバック： 6 ～ 16 Ω

● アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス： 200mV/47k Ω
周波数特性： 10 Hz ～ 100 kHz：+1、–3 dB（DIRECT モード時）
S/N 比： 100 dB（JIS-A）（DIRECT モード時）
ひずみ率 0.008 %（20 Hz ～ 20 kHz）（DIRECT モード時）
定格力 1.2 V

● フォノ・イコライザー部 （PHONO 入力　REC OUT）

入力感度： 2.5 mV
RIAA 偏差： 20 Hz ～ 20 kHz：± 1 dB
S/N 比： 74 dB（JIS-A、5 mV 入力時）
ひずみ率： 0.03 %（1 kHz、3 V 出力時）
定格出力： 150 mV

❑ビデオ部

● 標準映像端子

入出力レベル / インピーダンス： 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 10 MHz： +0、–3 dB（ビデオコンバートが“OFF”のとき）

● S 映像端子

入出力レベル / インピーダンス： Y（輝度）信号： 1 Vp-p/75 Ω
C（色）信号： 0.286 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 10 MHz： +0、–3 dB（ビデオコンバートが“OFF”のとき）

● 色差（コンポーネント）映像端子

入出力レベル / インピーダンス： Y（輝度）信号： 1 Vp-p/75 Ω
PB/CB（青色）信号： 0.7 Vp-p/75 Ω
PR/CR（赤色）信号： 0.7 Vp-p/75 Ω
周波数特性： 5 Hz ～ 100 MHz： +0、-3 dB（ビデオコンバートが“OFF”のとき）

❑総合

電源： AC100 V　50/60 Hz
消費電力： 260 W（電気用品安全法による）
0.3 W （スタンバイ時）
最大外形寸法： 434（幅）× 171（高さ）× 420（奥行き）mm
質量： 12.7 kg

❑リモコン（RC-1082）

乾電池： R6P（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法： 52（幅）× 243（高さ）× 21（奥行き）mm
質量： 184 g（乾電池を含む）

※ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

DVD Player

	Brand	Code
A	Aiwa	009
D	Denon	014, **[111]***
H	Hitachi	010
J	JVC	006, 011
K	Konka	012, 013
M	Magnavox	005
	Mitsubishi	004
P	Panasonic	014
	Philips	005, 015, 016, 017
	Pioneer	003, 008
S	Sanyo	018
	Sony	002, 019, 020
T	Toshiba	001, 021, 022
Z	Zenith	023

VDP

	Brand	Code
D	Denon	028, 029, 112
M	Magnavox	026
	Mitsubishi	028
P	Panasonic	029, 030
	Philips	026
	Pioneer	028, 031
R	RCA	032
S	Sony	033, 034, 035, 036

VCR

	Brand	Code
A	Admiral	081
	Aiko	095
	Aiwa	009
	Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
	Alba	055
	Amstrad	009
	ASA	042
	Asha	087
	Audio Dynamic	005, 085
	Audiovox	088
B	Beaumark	087
	Broksonic	086, 093
C	Calix	088
	Candle	006, 087, 088, 089, 090
	Canon	049, 057
	Capehart	025, 055, 056, 071
	Carver	015
	CCE	095
	Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
	Craig	007, 087, 088, 091, 115
	Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
	Cybernex	087
D	Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
	Daytron	025, 055
	DBX	005, 085
	Dumont	053
	Dynatech	009
E	Electrohome	001, 088, 097
	Electrophonic	088
	Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
F	Flsher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
G	GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
	Go Video	047, 048
	Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
	Gradiente	094
	Grundig	042
H	Harley Davidson	094
	Harman Kardon	040, 062
	Hi-Q	091
	Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, **[108]***, 109, 110, 111
J	JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
	Jensen	013, 026
	JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
K	Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
	Kodak	088
L	Lloyd	009, 094
	LXI	088
M	Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
	Magnin	087
	Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
	Marta	088
	MEI	049
	Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
	Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
	MGA	001, 017, 027, 041, 097
	MGN Technology	087
	Midland	011
	Minolta	013, 023
	Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
	Motorola	081
	Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
	MTC	009, 087, 094
	Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
N	NAD	038
	NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
	Nikko	088
	Noblex	087
O	Optimus	081, 088
	Optonica	021
P	Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
	Perdio	009
	Pentax	009, 013, 023, 058, 090
	Philco	015, 016, 049
	Philips	015, 021, 042, 049, 105
	Pilot	088
	Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
	Portland	025, 055, 090
	Proscan	063, 080
	Pulsar	060
Q	Quartz	033
	Quasar	034, 035, 049
R	Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
	Radix	088
	Randex	088
	RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
	Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
	Ricoh	055
S	Salora	033, 041
	Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
	Sanky	081
	Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
	Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
	SBR	042
	Scott	017, 020, 086, 089, 0 7
	Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
	Sentra	055
	Sharp	001, 002, 021, 097
	Shogun	087
	Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
	STS	023
	Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
	Symphonic	009, 094
T	Tandy	009
	Tashiko	009, 088
	Tatung	004, 026, 030
	Teac	004, 009, 026, 094
	Technics	024, 049
	TMK	087, 092
	Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
	Totevision	007, 087, 088
U	Unirech	087
V	Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
	Victor	005, 045, 046, 085
	Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
	Videosonic	007, 087
W	Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
X	XR-1000	094
Y	Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Z	Zenith	060, 078, 079

Television

	Brand	Code
A	Admiral	045, 121
	Adventura	122
	Aiko	054
	Akai	016, 027, 046
	Alleron	062
	A-Mark	007
	Amtron	061
	Anam	006, 007, 036
	Anam National	061, 147
	AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
	Archer	007
	Audiovox	007, 061
B	Bauer	155
	Belcor	047
	Bell & Howell	045, 118
	Bradford	061
	Brockwood	003, 047
C	Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
	Capehart	003
	Celebrity	046
	Circuit City	003
	Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
	Concerto	031, 047, 049
	Colortyme	003, 047, 049, 135
	Contec	013, 051, 052, 061
	Cony	051, 052, 061
	Craig	004, 061
	Crown	029
	Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
D	Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
	Daytron	003, 049
	Dimensia	044
	Dixi	007, 015, 027
E	Electroband	046
	Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
	Elta	027
	Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
	Envision	038
	Etron	027
F	Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
	Formenti	155
	Fortress	012
	Fujitsu	004, 062
	Funai	004, 062
	Futuretech	004
G	GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
	Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
	Grundy	062
H	Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, **[134]***
	Hitachi Pay TV	151
I	Infinity	017, 071
J	Janeil	122
	JBL	017, 071
	JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
	JCB	046
	JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
K	Kawasho	018, 046
	Kenwood	038, 056, 057
	Kloss	010, 032
	Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
	KTV	074, 123
L	Loewe	071
	logik	144
	Luxman	031
	LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
M	Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
	Marantz	015, 017, 071, 080
	Matsui	027
	Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
	Metz	160, 161, 162, 163

	MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
	Midland	125
	Minutz	066
	Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
	Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
	Motorola	121, 147
	MTC	031, 034, 039, 048, 095
N	NAD	008, 075, 076, 128
	National	002, 036, 061, 147
	National Quenties	002
	NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
	Nikko	054
	NTC	054
O	Optimus	128
	Optonica	011, 012, 093, 121
	Orion	004, 139
P	Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
	Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
	Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
	Pioneer	124, 128, 142
	Portland	054
	Price Club	095
	Proscan	040, 044, 125
	Proton	035, 051, 092, 129
	Pulsar	042
Q	Quasar	036, 037, 074, 141
R	Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
	RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
	Realistic	014, 063, 093, 118
S	Saisho	027
	Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
	Sansui	139
	Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
	SBR	015
	Schneider	015
	Scott	062
	Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
	Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
	Siemens	013
	Signature	045, 144
	Simpson	050
	Sony	043, 046, 138, 146, 150
	Soundesign	030, 050, 062
	Spectricon	007, 033
	Squareview	004
	Supre-Macy	032, 122
	Supreme	046
	Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
	Symphonic	004, 148
T	Tandy	012, 121
	Tatung	036, 124
	Technics	037
	Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
	Tera	035, 129
	THOMSON	165, 166
	Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
U	Universal	020, 066, 088
V	Victor	019, 073, 126
	Video Concepts	016
	Viking	032, 122
W	Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Z	Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
	Zonda	007

Cable

A	ABC	006, **[007]***, 008, 009
	Archer	010, 011
C	Century	011
	Citizen	011
	Colour Voice	012, 013
	Comtronic	014
E	Eastern	015
G	Garrard	011
	Gemini	030, 033, 034
	General Instrument	030, 031, 032
H	Hytex	006
J	Jasco	011
	Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
M	Magnavox	018
	Movie Time	019
N	NSC	019
O	Oak	000, 006, 020
P	Panasonic	001, 005
	Philips	011, 012, 013, 018, 021
	Pioneer	002, 003, 022
R	RCA	029
	Regency	015
S	Samsung	014, 023
	Scientific Atlanta	004, 024, 025
	Signal	014
	SL Marx	014
	Starcom	009
	Stargate	014
T	Teleview	014
	Tocom	007, 016
	TV86	019
U	Unika	011
	United Artists	006
	Universal	010, 011
V	Viewstar	018, 019
Z	Zenith	027, 028

Satellite Receiver

A	Alphastar	054
C	Chaparrali	035, 036
D	Dishnet	053
	Drake	037, 038
E	Echostar Dish	062, 066
G	GE	048, 055, 056
	General Instruments	039, 040, 041
	Grundig	070, 071, 072, 073
H	Hitachi	058, 059
	Hughes Networkr	063, 064, 065, 069
J	JVC	057
K	Kathrein	074, 075, 076, 083
M	Magnavoxl	060
N	Nokia	070, 080, 084, 085, 086
P	Philips	060
	Primestar	051
	Proscan	048, 055, 056
R	RCA	048, 055, 056, 068
	Realistic	042
S	Sierra I	036
	Sierra II	036
	Sierra III	036
	Sony	049, 067
	STS1	043
	STS2	044
	STS3	045
	SRS4	046
T	Technisat	077, 078, 079, 081, 082
	Toshiba	047, 050
	Uniden	061

CD Player

A	Aiwa	001, 035, 043
B	Burmster	002
C	Carvery	003, 035
D	Denon	**[111]***, 044
E	Emerson	004, 005, 006, 007
F	Fisher	003, 008, 009, 010
J	JVC	018, 019
	Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
M	Magnavox	006, 015, 035
	Marantz	016, 028, 035
	MCS	016, 024
O	Onkyo	025, 027
	Optimus	017, 020, 021, 022, 023
P	Philips	014, 032, 033, 035
	Pioneer	006, 022, 030
S	Sears	006
	Sony	023, 031
T	Teac	002, 009, 028
	Technics	016, 029, 036
W	Wards	035, 037
Y	Yamaha	038, 039, 040, 041
Z	Zenith	042

CD Recorder

D	Denon	**[151]***, 112
P	philips	112

MD Recorder

A	Kenwood	053, 054
B	Onkyo	057
C	Sharp	055
D	Denon	113
E	Sony	056

Tape Deck

A	Aiwa	001, 002
C	Carver	002
D	Denon	111
H	Harman/Kardon	002, 003
J	JVC	004, 005
K	Kenwood	006
M	Magnavox	002
	Marantz	002
O	Onkyo	016,018
	Optimus	007,008
P	Panasonic	012
	Philips	002
	pioneer	007, 008, 009
S	Sony	013, 014, 015
T	Technics	012
V	Victor	004
W	Wards	007
Y	Yamaha	010, 011

プリセットコード	111（初期設定）			014
DENON 製 DVD プレーヤー	DVD-555 DVD-755 DVD-900 DVD-910 DVD-955 DVD-1000 DVD-1200 DVD-1500 DVD-1710 DVD-1910	DVD-1930 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800II DVD-2900 DVD-2910 DVD-2930 DVD-3800 DVD-3910 DVD-3930	DVD-5900 DVD-5910 DVD-9000 DVM-715 DVM-1800 DVM-1805 DVM-1815 DVM-2815 DVM-4800	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3000 DVD-3300

[ ]＊：お買い上げ時に設定されているプリセットコードです。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川 1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　00D 511 4708 109